



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

令和5年度 学校要覧

目次

◆ 校長挨拶……………	P1	◆ 学生相談室・保健室……………	P28
◆ 校章・校歌……………	P2	◆ ものづくり教育センター……………	P28
◆ 沿革……………	P3	◆ 総合情報センター……………	P28
◆ 教育理念……………	P4	◆ 産学民連携テクノセンター……………	P29
◆ 教育目的・目標（本科）……………	P4	◆ キャリア支援室……………	P29
◆ アドミッションポリシー……………	P4	◆ 学生寮……………	P30
◆ 各学科・専攻科の3つの方針……………	P5	◆ 学生会……………	P31
◆ 主な行事……………	P8	◆ 入学・在学状況……………	P32
◆ 組織……………	P9	◆ 卒業・修了状況……………	P33
◆ 一般科目……………	P11	◆ 研究活動……………	P34
◆ 学科		◆ 社会貢献……………	P35
機械工学科……………	P13	◆ 課外活動の主な実績……………	P35
電気電子工学科……………	P15	◆ 国際交流……………	P36
制御情報工学科……………	P17	◆ 大学等間交流協定……………	P37
生物応用化学科……………	P19	◆ 財務状況……………	P38
材料システム工学科……………	P21	◆ 施設状況……………	P39
◆ 専攻科……………	P23	◆ アクセス……………	P41
◆ 図書館……………	P27		



筑後川(手前)の畔に位置するキャンパス全景

校長挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

校長 松村 晶



久留米工業高等専門学校は、実り豊かな筑後平野を悠々と流れる筑後川と宝満川が合流するほとりに位置しています。ここ小森野の地には、今から80年以上前に、我が国の発展を担う技術者の育成を目的にした旧制久留米高等工業学校が建てられました。その後時代と共に変遷をたどり、1964年に、中学校卒業後の5年間で実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関として制定された高等専門学校の第3期校として、本校は設立されて現在に至っています。1966年3月に全国の高専で初めて卒業生を輩出して以来、本校の卒業生は1万余名に及び、国内外において優れた創造的なエンジニア、研究者や社会人として各方面で活躍しています。

本冊子は、本校の教育や研究の方針や内容とともに、学生生活や社会との結びつきの状況など、本校が進めている様々な活動を広く一般の方々にご紹介することを目的としています。

本校は、ここに記述していますように、5年課程の本科に、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の5学科を配しており、そこでは大学受験で中断されることなく、一貫した専門教育とともに人格形成に資する教養教育を行なっています。その後に続く2年の専攻科では、機械・電気システム工学と物質工学の2専攻に分かれてさらに深く専門性を磨き、修了後には大学卒業と同様の学士の称号を得ることができます。また専攻科では、今年度から九州大学工学部と連携した教育プログラムコースが開設されました。このコースを修了した者は、専攻科の修了証書とともに九州大学工学部卒業証書（学士の学位記）も与えられます。

本校は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊か

な心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を教育理念として掲げて、将来に夢を託すことができる優れた人材の育成に教職員をあげて取り組んでいます。本科生の約6割は卒業後に就職して社会で活躍をし始めます。本校卒業生には社会の各方面から有能な人材として非常に高い期待が寄せられており、有難いことに就職志望者数の約40倍にも達する求人が各界から毎年寄せられています。残りの約4割は本校専攻科あるいは九州大学や東京工業大学等の大学3年生に進学して、さらに研鑽を積んでそれぞれの道を歩んでいきます。本校専攻科卒業生への求人倍率も例年100倍以上と極めて高く、本校の教育理念は十分に実現できているものと確信いたします。

高等専門学校は高等教育機関として、産業界や地域社会との連携・協働を密にして、そこで生じている様々な課題の科学的な解決に取り組み、それらを通して人材教育の高度化を図ることも使命としています。そのために本校は、久留米市内の大学等の5つの高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム久留米」や近隣の技術系企業、研究機関などが参加している「テクノネット久留米」などの連携事業に積極的に関わって、主要な役割を演ずるとともに、久留米商工会議所、日本歯車工業会、日本ゴム協会九州支部や、九州大学・工学系部局、久留米工業大学などとも個別に協定を締結して、社会から寄せられるご期待に積極的にお応えしています。

是非とも久留米工業高等専門学校の活動や動向にご注目とご関心を寄せていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

校章・校歌

1. 校章



久留米市は、つつじの名所として広く知られており、本校は、春ともなればつつじの花が色彩豊かに校庭いっぱいに咲き競い、咲き乱れます。

校章はそのつつじの葉を形どったものであり、また葉脈は、学校のすぐ横を流れる九州一の大河である筑後川の流れを表象したもので、たゆまなく流れる川の流れは、たゆまなく学びの道に進みゆく姿を表したものです。

2. 校歌

1. 筑紫なる 清き山水 あつめきて 流れ流るる 筑後川
ひる夜となく 流れ流るる
我らも進まん学びの道を 学びの道を！！

2. 春くれば つつじの花は 日に映えて 我が校庭に
咲き競う いのちの限り 咲き競う
我らも咲かさん技術の花を 技術の花を！！

3. 紺碧の 空に聳ゆる 耳納山 永遠にゆるがで 世を護る
雨降る日にも 嵐の夜も
我らも築かんゆるがぬものを ゆるがぬものを！！

沿革

久留米工業高等専門学校は、昭和 14 年に官立の実業専門学校である久留米高等工業学校が開設されたことに起源を發します。同校は、高等教育改革の一環として昭和 19 年に久留米工業専門学校へ改称し、戦後の学制改革において昭和 24 年に九州大学へ包括されて九州大学久留米工業専門学校となった後、最後の卒業生を送り出した昭和 26 年に閉校となりました。

その後、昭和 33 年に久留米工業短期大学が、そして昭和 36 年に久留米工業短期大学附属工業高等学校が各々設立され、ここに 5 年制の高等工業教育のモデルケースが全国で初めて誕生しました。

そして、昭和 39 年に久留米工業短期大学及び同附属工業高等学校から移行する形で現在の久留米工業高等専門学校が設立されました。これに伴い、久留米工業短期大学附属工業高等学校は廃止され、その在校生は久留米工業高等専門学校へ編入されましたが、その結果、昭和 41 年に全国で初めて高等専門学校の卒業生を輩出するに至っています。

また、平成 5 年には九州の高等専門学校で最初に専攻科を設置しました。

年表



久留米高等工業学校・ 久留米工業専門学校

昭和 14 年	5 月	久留米高等工業学校設立 (機械科、精密機械科、工作機械科、 鋳山機械科、採鉱科) 初代校長 小林 俊次郎 就任 第 1 回入学式挙行
昭和 16 年	12 月	第 1 回卒業式挙行
昭和 17 年	4 月	化学工業科設置
昭和 19 年	4 月	久留米工業専門学校に改称
昭和 20 年	11 月	二代校長 大脇 策市 就任
昭和 21 年	4 月	ゴム工業科設置
昭和 24 年	5 月	九州大学に包括され、九州大学久留 米工業専門学校となる
昭和 26 年	3 月	第 10 回卒業式挙行 九州大学久留米工業専門学校廃止 卒業生総数 2,654 名



久留米工業短期大学

昭和 33 年	4 月	久留米工業短期大学設立 (機械科、工業化学科) 初代学長 九州大学学長 山田 穰 (併任)
	6 月	二代学長 九州大学学長 教授 葛西 泰二郎 (併任) 第 1 回入学式挙行
昭和 35 年	3 月	第 1 回卒業式挙行
	4 月	電気科設置
昭和 36 年	4 月	久留米工業短期大学附属工業高等学 校設立 (機械科、電気科、工業化学科) 同校初代校長 九州大学 教授 葛西 泰二郎 (併任) 同校第 1 回入学式挙行
	5 月	三代学長 和栗 明 就任 (附属工 業高等学校長を併任)
昭和 37 年	4 月	短期大学、附属工業高等学校に金属 学科設置、機械科 1 学級増設
昭和 39 年	3 月	附属工業高等学校廃止 (在校生は同 年 4 月設立の久留米工業高等専門学 校に編入学)
昭和 41 年	3 月	第 7 回卒業式挙行 久留米工業短期大学廃止 卒業生総数 752 名



久留米工業高等専門学校

昭和 39 年	4 月	久留米工業高等専門学校設立 (機械 工学科 2 学級、電気工学科、工業化 学科、金属工学科) 初代校長 和栗 明 就任 第 1 回入学式、編入学式挙行
昭和 41 年	3 月	第 1 回卒業式挙行
昭和 49 年	10 月	創立 10 周年記念式典挙行
昭和 51 年	7 月	二代校長 園田 正明 就任
昭和 59 年	4 月	三代校長 西川 兼康 就任
	10 月	創立 20 周年記念式典挙行
昭和 62 年	4 月	金属工学科を材料工学科へ改組
平成 元年	4 月	四代校長 長谷川 修 就任
平成 3 年	4 月	機械工学科 2 学級のうち 1 学級を制 御情報工学科へ改組
平成 5 年	4 月	専攻科設置 専攻科第 1 回入学式挙行
平成 6 年	4 月	五代校長 谷口 宏 就任
	10 月	創立 30 周年記念式典挙行
平成 7 年	3 月	専攻科第 1 回修了式挙行
平成 8 年	4 月	工業化学科を生物応用化学科へ改組
平成 11 年	4 月	六代校長 柳 謙一 就任
平成 13 年	4 月	電気工学科を電気電子工学科へ名称 変更
平成 16 年	4 月	独立行政法人国立高等専門学校機構 設置
平成 17 年	4 月	七代校長 前田 三男 就任
平成 22 年	4 月	八代校長 上田 孝 就任
平成 26 年	11 月	創基 75 周年・高専創立 50 周年記 念式典挙行
平成 27 年	4 月	九代校長 三川 譲二 就任
平成 29 年	4 月	材料工学科を材料システム工学科に 名称変更
令和 2 年	4 月	十代校長 本庄 春雄 就任
令和 4 年	4 月	十一代校長 松村 晶 就任

教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成



教育目的・目標（本科）

◆ 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。

- 1 自立の精神と創造性に富んだ技術者
- 2 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
- 3 社会に貢献できる技術者

◆ 教育目標

- 1 広い視野と豊かな心の涵養
- 2 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
- 3 専門に関する基礎知識と技術の修得
- 4 問題を分析し、解決する能力の育成
- 5 自ら学び、工夫する能力の育成
- 6 コミュニケーション能力の育成

アドミッションポリシー

◆ 本 科

- 1 技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 専攻科

- 1 科学技術に対する強い探求心をもち、積極的に取り組む人
- 2 専門分野の基礎を修得している人
- 3 社会性と倫理観を身につけている人
- 4 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

各学科及び専攻科の3つの方針

本校は各学科及び専攻科においてディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）の三つの方針を掲げています。

◆ 機械工学科

ディプロマポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科学科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
- 2 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
- 4 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 機械技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 電気電子工学科

ディプロマポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術（ICT）、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科学科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
- 2 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
- 4 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 電気電子技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人

- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 制御情報工学科

ディプロマポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置し、高学年に進むに従い制御工学と情報工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
- 2 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3 制御工学と情報工学に関する専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
- 4 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 制御情報技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 生物応用化学学科

ディプロマポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置し、高学年に進むに従い応用化学や生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
- 2 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3 化学工業やバイオ工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
- 4 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

- 1 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 材料システム工学科

ディプロマポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
- 2 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科学科目を多く配置し、高学年に進むに従い工業材料に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
- 2 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3 金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する材料工学の専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
- 4 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

アドミッションポリシー

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため次のような人を求めています。

- 1 材料技術者になる意欲を持っている人
- 2 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

◆ 専攻科 機械・電気システム工学専攻

ディプロマポリシー

機械・電気システム工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学のコースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。

専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び機械・電気システム工学専攻で定めた専門必修科目、更に機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。

評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、機械工学、電気電子工学または情報工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッションポリシー

次のような入学者を求めています。

- 1 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- 2 専門分野の基礎を修得している人
- 3 社会性と倫理観を身につけている人
- 4 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

◆ 専攻科 物質工学専攻

ディプロマポリシー

物質工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的技術者として、生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

カリキュラム・ポリシー

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。

専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び物質工学専攻で定めた専門必修科目、更に生物応用化学または材料工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。

評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、応用化学または材料工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッションポリシー

次のような入学者を求めています。

- 1 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- 2 専門分野の基礎を修得している人
- 3 社会性と倫理観を身につけている人
- 4 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

主な行事（令和5年度予定）

前期

4月

開寮
入学式、始業式、クラス写真撮影、
オリエンテーション
合宿研修（本科1年生）、数学診断テスト
英語外部評価テスト（本科1年生）
定期健康診断
開校記念日



入学式

5月

専攻科入学試験（前期）
学生大会
後援会総会・保護者懇談会
水災害防災訓練
ケータイ安全教室（本科1年生）

6月

前期中間試験
公開授業
クラスマッチ
文化部発表会
いじめ防止講習会



クラスマッチ

7月

九州沖縄地区高専体育大会（夏季）
前期末試験

8月

前期末試験
閉寮
夏季休業
一日体験入学
全国高専体育大会（夏季）



一日体験入学

9月

Web 学校説明会
工場見学旅行（本科4年生）
学校説明会（福岡県会場）
夏季休業



学校説明会

後期

10月

開寮
全校集会（本科生）、専攻科入試（後期）
九州沖縄地区英語プレゼンテーションコンテスト
九州沖縄地区高専ロボットコンテスト
全国高専プログラミングコンテスト
学校説明会・見学会
入試説明懇談会
ストレスマネジメント講習会



全国プログラミングコンテスト

11月

高専祭
学校説明会
九州沖縄地区高専体育大会（冬季）
ビジネスマナー講習会
編入学試験



高専祭

12月

後期中間試験
クラスマッチ
学生大会
高専フォーラム
冬季休業
閉寮

1月

全国高専体育大会（冬季）
高専シンポジウム
入学者選抜試験（推薦）
全校集会、予餞会
冬季休業
開寮

2月

後期末試験
入学者選抜試験（学力）
特別教育期間

3月

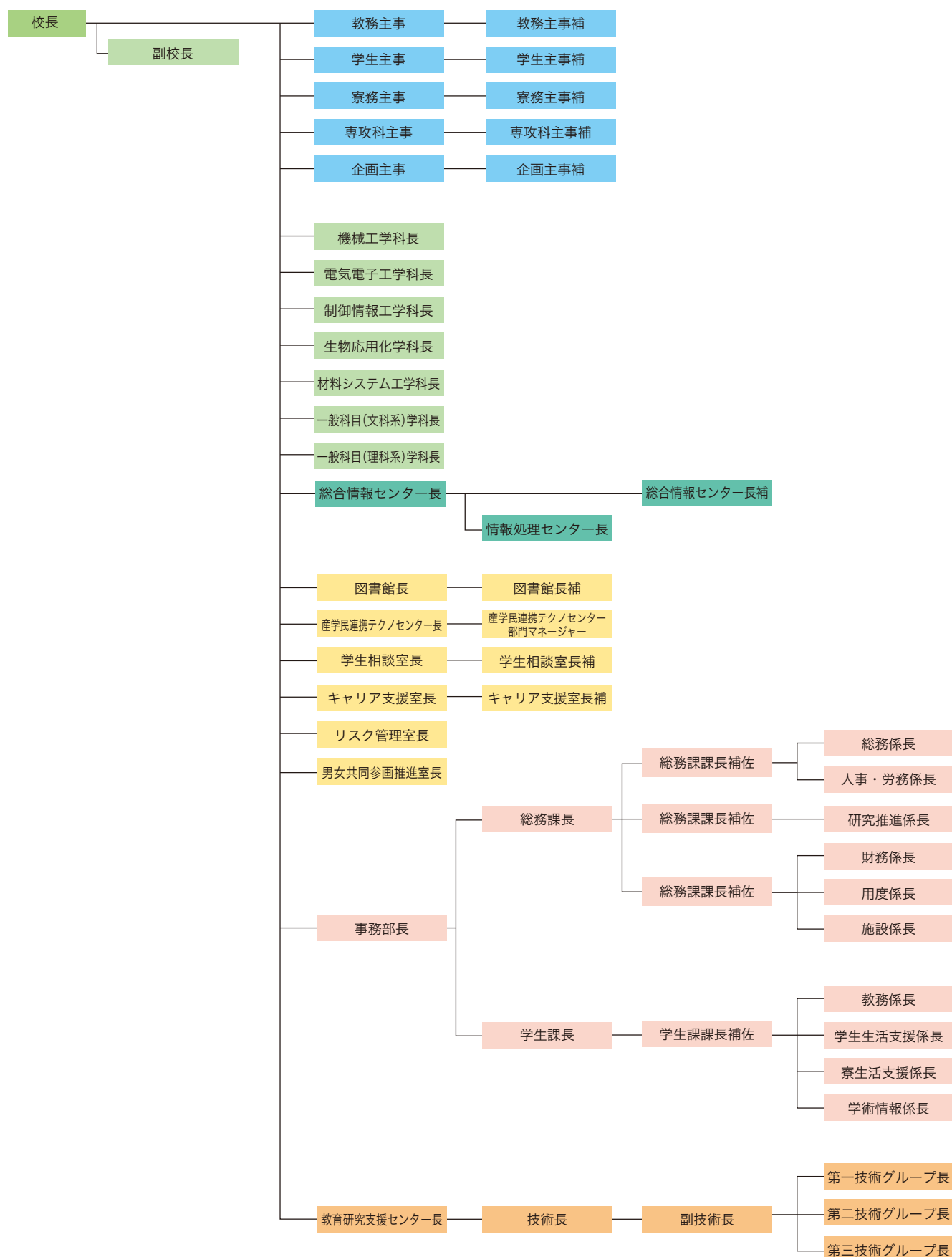
特別教育期間、学年末休業
終業式
卒業式・修了式



卒業式・修了式

組 織

1. 組織図



2. 教職員数（令和5年5月1日現在）

(1) 教員

標準人員枠（定員）		校長	教授	准教授	講師	助教	合計
		1	37	36	0	0	74
実行人員枠（現員）	校長	1	-	-	-	-	1
	機械工学科	-	5	4	0	0	9
	電気電子工学科	-	5	2	0	1	8
	制御情報工学科	-	3	5	0	0	8
	生物応用化学科	-	5	4	0	1	10
	材料システム工学科	-	5	3	0	2	10
	一般科目（文科系）	-	5	5	0	1	11
	一般科目（理科系）	-	2	8	0	1	11
合計		1	30	31	0	6	68

※フルタイム再雇用教員（特任教授）は助教に含む。 ※現員には高専間人事交流等により転出した教員を含まない。

教員の年齢構成

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
60歳～	6	0	0	0	6
50歳～59歳	21	8	0	0	29
40歳～49歳	3	15	0	1	19
30歳～39歳	0	8	0	4	12
20歳～29歳	0	0	0	0	0
合計	30	31	0	5	66

※校長及び再雇用教員は除く

(2) 職員

標準人員枠（定員）		事務部長	課長	専門員	課長補佐	係長 専門職員	技術長	技術専門員	看護師	技術・ 一般職員等	合計
		1	2	4	9	1	2	1	25	45	
（現員） 実行人員枠	事務部長	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
	総務課	-	1	3	4	-	-	0	10	18	
	学生課	-	1	1	2	-	-	1	6	11	
	教育研究支援センター	-	-	-	-	1	2	0	13	16	
	合計	1	2	4	6	1	2	1	29	46	

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等をいう。
※現員には育児休業中の職員を含む。

3. 管理職等教職員（令和5年5月1日現在）

職名	氏名
校長	松村 晶
教務主事・副校長	黒木 祥光
学生主事・副校長	龍頭 信二
寮務主事・副校長	田中 大
専攻科主事・校長補佐	川上 雄士
企画主事・校長補佐	奥山 哲也
総務担当副校長	酒井 道宏
機械工学科長	石丸 良平
電気電子工学科長	宮崎 浩一
制御情報工学科長	小田 幹雄
生物応用化学科長	石井 努
材料システム工学科長	山本 郁

職名	氏名
一般科目（文科系）学科長	金城 博之
一般科目（理科系）学科長	宮本 久一
総合情報センター長	越地 尚宏
図書館長	徳永 美紀
産学連携テクノセンター長	笈木 宏和
学生相談室長	中尾 哲也
キャリア支援室長	梶 隆彦
事務部長	津田 雅弘
総務課長	吉田 敏景
学生課長	木山 博志
教育研究支援センター長	川上 雄士（併任）

一般科目

1. 概略

高専教育の特色は5年間の一貫した教育を行うことです。一般科目は専門科目と相まって、優れた技術者の育成を期するため、広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間形成を目標とします。

一般科目のうち、文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養とコミュニケーション能力の養成を、また理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培うことを主眼にして教育が行われています。

2. 教員

(1) 一般科目 (文科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
金城 博之	教授／学科長	Master of Arts	英米文学、英語教育学	英語2、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用英語1、応用英語2、実践英語Ⅲ
龍頭 信二	教授	修士（教育学）	運動生理学	保健体育3、生涯スポーツ1、生涯スポーツ2
徳永 美紀	教授	Master of Arts in TESL	英語教育学	英語1、英語表現1、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用英語1、実践英語Ⅱ
横溝 彰彦	教授	Master of Arts in Speech Communication	コミュニケーション学	英語1、英語表現1、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用英語1、応用英語2、実践英語Ⅰ
鴨川 都美	教授	博士（文学）	日本近現代演劇／文学	国語2、リテラシー実践、日本語、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、日本語コミュニケーション
徳永 正尚	准教授	修士（教育学）	英語教育学	英語1、英語3、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
岡本 和也	准教授	修士（文学）	中世東地中海世界の歴史	歴史、人文社会科学探求1、人文社会科学探求2、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
赤塚 康介	准教授	博士（理学）	運動生理学	保健体育1、保健体育2、リベラルアーツ特論1、生涯スポーツ1、生涯スポーツ2、生涯スポーツ特論
福嶋 洋	准教授	修士（スポーツ健康科学）	スポーツ医科学、コーチング	保健体育1、保健体育2、生涯スポーツ1、生涯スポーツ2、リベラルアーツ特論2
常木 佳奈	准教授	修士（文学）	日本文学	国語1、リテラシー実践、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
白井 龍馬	助教	Master of Education	英語教授法、CLIL	英語表現1、英語2、応用英語2、応用英語1
福田かおる	嘱託教授	Doctor of Philosophy (Social Anthropology)	社会人類学、英国文化	英語表現1、英語2、英語3
非常勤講師			13名	

(2) 一般科目 (理科系)

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
宮本 久一	教授／学科長	工学博士	化学	化学1、化学2、化学実験、分子機能化学、応用化学実験、卒業研究
酒井 道宏	教授	博士（数理学）	代数的位相幾何学	数学3A、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用数理Ⅲ
山崎 有司	准教授	修士（理学）	薄膜	物理、応用物理実験、応用物理1
高橋 正郎	准教授	修士（理学）	微分幾何	数学1、数学2B、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
谷 太郎	准教授	博士（理学）	素粒子論	物理、応用物理実験、応用物理1、現代物理学
黒飛 敬	准教授	博士（理学）	化学	化学1、化学2、化学実験、分子機能化学、応用化学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文、先端工学特論
三木 弘史	准教授	博士（理学）	確率模型、統計力学	数学1、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2、応用数理Ⅱ
小山 暁	准教授	博士（人間・環境学）	高分子物理学、シミュレーション	応用物理実験、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
沖田 匡聡	准教授	博士（数理学）	偏微分方程式論	数学1、数学2A、数学2B、リベラルアーツ特論2、応用数理Ⅰ
中村 駿介	准教授	博士（理学）	グラフ理論	数学2A、数学3B、リベラルアーツ特論1、リベラルアーツ特論2
篠島 弘幸	特任教授	博士（工学）	材料物性・量子エレクトロニクス	物理、応用物理1、応用物理2、応用物理実験、統計力学及び熱力学
非常勤講師			7名	

3. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
ラーニングコモンズ	小人数教育のための学習空間で、学習支援や個別指導を目的としている。
マルチメディア教室 (LL 教室)	視聴覚設備・教材を用いて、英語の音声に関する能力を向上させる。
英語多読教材・e-learning 教材	多読による自然な英語習得、学内外 e-learning での TOEIC 学習支援を行う。
応用物理実験室 (PJ)	本科学士の応用物理実験授業に使用し、基礎知識と実験技術を修得させる。
一般化学実験室	本科学士の化学実験授業に使用し、基礎知識と実験技術を修得させる。
赤外分光光度計	有機化合物の官能基の測定を行う。
旋光度計	光学活性体の旋光度の測定を行う。
紫外可視分光光度計	紫外光および可視光の吸収スペクトルの測定を行う。

4. 教育課程 (令和5年度1年生基準)

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	国語	国語 1	4	4					
		国語 2	2		2				
		リテラシー実践	2			2			留学生は履修しない
	社会	地理	2	2					
		歴史	2		2				
		公共	2		2				
		人文社会科学探求 1	1			1			留学生は履修しない
		人文社会科学探求 2	1			1			留学生は履修しない
	数 学	数学 1	6	6					
		数学 2A	4		4				
		数学 2B	2		2				
		数学 3A	4			4			
		数学 3B	2			2			
	理 科	物理	4		4				
		化学 1	3	3					C は 4 単位
		化学 2	2		2				C は 1 単位
		生物	1	1					A、E、S、M
		地学	1	1					A、E、S、M
		生物学 1	2	2					C
	英 語	英語 1	4	4					
		英語表現 1	2	2					
		英語 2	4		4				
		英語表現 2	2		2				
		英語 3	4			4			学修単位
		応用英語 1	2				2		学修単位
		応用英語 2	2				2		学修単位
保健・体育	保健体育 1	2	2						
	保健体育 2	2		2					
	保健体育 3	2			2				
	生涯スポーツ 1	2				2			
	生涯スポーツ 2	1					1		
芸術	美術	1	1					A、S、C、M	
	音楽	1	1					E	
科目教養	リベラルアーツ特論 1					1			
	リベラルアーツ特論 2					1			
必修科目修得小計			77	26	26	16	8	1	
選択科目	外国語 第二	中国語	1				1	(1)	いずれか 1 単位を 4 年次に修得。 (4 年次修得できなかった場合は、5 年次に履修可)
		韓国語	1				1	(1)	
		フランス語	1				1	(1)	
	選択科目修得小計			1				1	(1)
一般科目修得合計			78	26	26	16	10		

※ A：機械工学科 E：電気電子工学科 S：制御情報工学科 C：生物応用化学科 M：材料システム工学科

機械工学科

1. 概略

機械工学科は、以下の教育目的・目標の下、主に機械設計、機械加工、機械の4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）に関する教育を行っています。

最先端のものづくりのため、3次元設計・解析・製造過程のデジタルエンジニアリング教育を実践しているのが本学科の特徴です。

卒業生は、主に航空・宇宙、自動車、重工業、エネルギー・環境、ロボット、電力、鉄鋼、電機、化学、医薬品・食品など広範囲な産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

(2) 教育目標

機械技術者としての素養を備え、次の専門分野に関する基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・材料強度 ・機械力学 ・設計製図 ・生産加工 ・制御、情報 ・熱、流体
- ・機械工学に関連した周辺技術

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
石丸 良平	教授／学科長	博士（工学）	歯車工学	リベラルアーツ特論2（気象と防災）、工業英語、専門基礎（機械工学）、機械製図3、リベラルアーツ特論1（気象と防災）、機械工学特論、設計システム工学、機械設計製図、機械工学概論（制御）
中武 靖仁	教授	博士（工学）	環境エネルギー工学	伝熱工学、機械設計製図、短期インターンシップ、地球環境と現代生物学、機械工学概論（電気・生化）
谷野 忠和	教授	博士（工学）	流体工学	流体機械、応用数学1、流体工学、応用流動工学、四力学演習、機械要素設計実験
田中 大	教授	博士（工学）	熱工学	工業熱力学、技術英語、移動現象論、創造工学実験、機械要素設計実験、四力学演習
中尾 哲也	教授	博士（情報工学）	制御工学	機械力学、制御工学、工業力学、計算力学、創造工学実験、応用情報処理演習、機械要素設計実験、専門基礎（機械工学）、四力学演習
青野 雄太	准教授	博士（工学）	材料力学	機械要素設計実験、材料力学2、四力学演習、材料力学1、CAD演習、機械製図2、弾塑性力学、破壊力学
細野 高史	准教授	博士（工学）	特殊加工	品質管理、応用数学3、精密加工工学、機械加工工学、機械加工実習3、機械加工実習2、機械加工実習1、生産加工工学、専門基礎（機械工学）
南山 靖博	准教授	博士（工学）	安全工学	機械工学セミナー、応用数学2、安全工学と工業倫理、情報リテラシー、安全工学・工業倫理、CAD演習、技術社会の安全と倫理、専門基礎（機械工学）、労働安全衛生論
渡邊 悠太	准教授	博士（工学）	表面処理	機構学、図学、機械製図1、機械設計法1
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究、専攻科研究論文、機械工学導入セミナー、機械工学概論、機械工学実験、専攻科研究基礎
非常勤講師			8名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
複合加工機	様々な加工を1台で行うことのできる数値制御工作機械。
5軸マシニングセンタ	5軸加工により滑らかな曲面の加工ができる数値制御工作機械。
ワイヤ放電加工機	板状の素材を精度良く複雑な形状に加工する機械。
表面粗さ・輪郭形状複合測定機	製品の表面粗さや輪郭形状を1台で測定できる測定機。
精密万能試験機	金属材料の引張試験、圧縮試験、曲げ試験など各種試験ができる試験機。
赤外線サーモグラフィ	対象物から離れたところから、非接触で温度測定ができる測定機。
走査電子顕微鏡	表面構造や表面の形状を高倍率、高分解能で観察する顕微鏡。
3次元プリンタ	3次元のデジタルデータをもとに現実の物体を作る装置。

5. 教育課程（令和5年度1年生基準）

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門数学	確率・統計	2			2			学修単位
		応用数学 1	1				1		
		応用数学 2	1				1		
	専門理科	応用物理 1	2			2			
		応用物理 2	2			2			
		応用物理実験	2			2			
		化学実験	2		2				
	技術者素養	機械工学導入セミナー	1	1					
		安全工学と工業倫理	1				1		
		工業英語	1				1		
		機械工学セミナー	2					2	
	設計開発	図学	2		2				
		機械製図 1	2	2					
		機械製図 2	2		2				
		CAD 演習	1			1			
		機械製図 3	4			4			
		機械設計製図	4				4		
		機械要素設計実験	2					2	
		機械設計法 1	2				2		
		機械設計法 2	1					1	
		機構学	1				1		
	力学	工業力学	2				2		学修単位
		機械力学	2					2	
		材料力学 1	1			1			
		材料力学 2	2				2		
		四力学演習	2				2		
	制御情報	情報リテラシー	1		1				学科横断科目 学修単位
		制御情報工学概論	1			1			
		制御工学	2					2	
	製造技術	機械加工工学	1			1			学科横断科目
		精密加工工学	1				1		
		品質管理	1					1	
		機械加工実習 1	3	3					
		機械加工実習 2	3		3				
		機械加工実習 3	3			3			
		材料システム工学概論	1			1			
	熱流体	流体工学	2				2		学修単位
		流体機械	2					2	
		工業熱力学	2				2		
		伝熱工学	2					2	学修単位
		機械工学実験	3				3		
		卒業研究	12					12	
	関連専門	電気電子工学概論	1					1	学科横断科目
		化学工学概論	1					1	学科横断科目
	必修科目修得小計			89	6	10	20	25	28
選択科目	短期インターンシップ		1				1		3 年留学生のみ履修 4 年生編入学生のみ履修
	半導体工学概論 1		1				1		
	半導体工学概論 2		1				1		
	専門基礎（機械工学）		2			2			
	機械工学概論		1				1		
	選択科目修得小計			0 以上				0 以上	
	専門科目修得合計			89 以上	6	10	20	53 以上	

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	20	25	28	
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	6	10	20	53 以上		
総修得単位数		167 以上	32	36	36	63 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

電気電子工学科

1. 概略

電気電子工学科では、以下の教育目的・目標の下、主に電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。

工学基礎を学ぶ講義を始め、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取り組める応用力育成を図るのが、本学科の特徴です。

卒業生は、製造業、エネルギー産業に加え、流通、情報産業に渡る広い分野の技術者として活躍しています。さらに、一定の実務経験により電気主任技術者の国家資格を得ることができます。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

(2) 教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、次の専門分野に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

- ・エレクトロニクス
- ・情報通信技術 (ICT)
- ・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
- ・電気電子工学に関連した周辺技術

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
宮崎 浩一	教授/学科長	博士 (工学)	プラズマ科学	情報理論、パワーエレクトロニクス、高電圧工学、短期インターンシップ、電気電子演習 1、電気電子演習 2、電気回路 1、プラズマ工学、電気電子工学特論、電気電子実験 2
越地 尚宏	教授	博士 (理学)	物性物理、工学教育	応用数学 1、応用数学 2、応用物理 2、電磁気学 3、技術社会の安全と倫理、電気電子実験 2、電気電子演習 3、電磁気学 1、情報リテラシー、電気電子工学特論、量子力学
平川 靖之	教授	博士 (工学)	レーザー分析	電気回路 2、電気回路 3、電気電子 CAD、電気電子工学基礎、光エレクトロニクス、応用電磁気学、電気電子工学特論、先端工学特論
山口 崇	教授	博士 (工学)	磁気応用・計測	システム工学、電力応用、プログラミング 1、プログラミング 3、論理回路、電気電子演習 1、電気電子実験 2、電気電子実験 3
村上 秀樹	教授	博士 (工学)	半導体工学	半導体工学、確率統計、電気電子実験 1、技術英語、集積回路工学、電気電子演習 2、電気電子工学概論 (機械、材料)
ウリントヤ	准教授	博士 (工学)	高周波工学	コミュニケーション、電気電子計測、マイコン制御、創造工学実験、デジタル信号処理、電気電子演習 2、電気電子演習 3
山本 哲也	准教授	博士 (工学)	磁気応用・計測	電力システム、電気機器工学 1、電気機器工学 2、電磁気学 2、電気電子実験 2、電気電子実験 3、電気電子演習 3
原田裕二郎	助教	博士 (工学)	集積回路工学	電気電子設計、制御工学、計算機アーキテクチャ、電子回路、プログラミング 2、創造工学実験、電気電子工学概論 (生化)
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究、専攻科研究論文、専攻科研究基礎、総合基礎演習
非常勤講師			4 名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
バッテリーシミュレーター-IPM モータ駆動システム	回生型直流電源とインバータによる永久磁石同期モータ駆動について学ぶことができる。
太陽光エネルギーシミュレータシステム	太陽光発電機器の特性をシミュレーションを通して体験・学ぶことができる。
電動機-発電機実験装置	直流機・誘導機・同期機等を実際に操作し特性を理解することができる。
テラヘルツ時間領域分光システム	最新のテラヘルツ分光システムを用いて高度な研究を行うことができる。
プロセス・デバイスシミュレータ	半導体素子の作成工程及び電気特性のシミュレーションを行うことができる。
LabVIEW / ELVIS / ROBOTICS システム一式	20 セット以上保有し電気電子計測/デジタル制御を実践で学ぶことができる。
高電圧発生・測定システム	150kV 程度の高電圧試験 (絶縁・放電) を行うことができる。
ネットワーク・アナライザ	様々な高周波回路の周波数特性を観察/測定することができる。

5. 教育課程（令和5年度1年生基準）

授 業 科 目			単位数	学 年 別 配 当					備 考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	電気電子基礎	電気電子工学基礎	1	1					
		電磁気学 1	1		1				
		電磁気学 2	2			2			
		電磁気学 3	1				1		
		電気回路 1	1		1				
		電気回路 2	2			2			
		電気回路 3	2				2		
		半導体工学	2				2		学修単位
		応用物理 1	2			2			
		応用物理 2	2				2		
		確率統計	1			1			
		応用数学 1	2				2		
		応用数学 2	2				2		
	エネルギー・制御	電気機器工学 1	1			1			
		電気機器工学 2	1				1		
		パワーエレクトロニクス	2					2	学修単位
		高電圧工学	2				2		学修単位
		電力発生工学	1					1	
		電力システム	1					1	
		電力応用	1					1	
		機械工学概論	1				1		学科横断科目
	制御工学	2				2		学修単位	
	コンピュータ・情報通信	情報リテラシー	1	1					
		プログラミング 1	1	1					
		プログラミング 2	2		2				
		プログラミング 3	1			1			
		計算機アーキテクチャ	1				1		
		論理回路	2			2			
		電子回路	2				2		
		マイコン制御	1			1			
		電気電子計測	2				2		学修単位
		情報理論	1					1	
	工業・設計	情報インフラストラクチャー	1					1	
		通信ネットワーク	1					1	
		技術社会の安全と倫理	1				1		
		電気施設管理	1					1	
		コミュニケーション	1				1		
		システム工学	1					1	
		電気電子 CAD	2		2				
		電気電子設計	1					1	
	電気電子材料	1				1		学科横断科目	
	実験・実習・演習	生物応用化学概論	1				1		学科横断科目
		化学実験	2		2				
応用物理実験		2			2				
総合基礎演習		2	2						
電気電子演習 1		1	1						
電気電子演習 2		2		2					
電気電子演習 3		2			2				
電気電子実験 1		2			2				
電気電子実験 2		4				4			
電気電子実験 3		2					2		
卒業研究		12					12		
必修科目小計		89	6	10	18	30	25		
選択科目	短期インターンシップ	1				1			
	半導体工学概論 1	1				1			
	半導体工学概論 2	1				1			
	専門基礎（電気電子工学）	1			2			留学生のみ履修	
	電気電子工学概論	1				1		4年生編入学生のみ履修	
	選択科目小計		0 以上				0 以上		
専門科目修得合計		89 以上	6	10	18	55 以上			

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78 以上	26	26	16	10		
専門	必修科目	89	6	10	18	30	25	
	選択科目	0 以上				0 以上		
	小計	89 以上	6	10	18	55 以上		
総修得単位数		167 以上	32	36	34	65 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

制御情報工学科

1. 概略

半導体の驚異的な性能向上により、パソコンのみならず、自動車・電化製品を始めとするあらゆる製品にコンピュータが組み込まれています。

制御情報工学科では、このような情報化社会に対応すべく、コンピュータを用いた機械や電子機器（例えばロボット、デジタルカメラ、全自動洗濯機）を制御するメカトロニクス技術および情報工学の専門知識を修得する教育課程を設けています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

(2) 教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な次の専門分野に関する基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・メカトロニクス、コンピュータ制御
- ・情報工学、通信ネットワーク
- ・制御情報工学に関連した周辺技術

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
小田 幹雄	教授／学科長	博士（工学）	知能情報工学	制御情報工学概論（機械）、計算機アーキテクチャ1、情報通信実験、計算機アーキテクチャ2、計算機システム、ディジタル回路設計、電子計算機基礎、論理回路、情報セキュリティ、制御情報工学特論、形式言語とオートマトン、技術英語
江頭 成人	教授	博士（工学）	制御工学	パワーエレクトロニクス、工業倫理と安全、電気回路2、電気回路1、機構学、情報処理基礎、メカトロニクス工学、ディジタル制御、制御工学実験、専門基礎（制御情報工学）
黒木 祥光	教授	博士（工学）	画像処理	情報理論、応用数学1、信号処理、画像工学、コンピュータグラフィックス
中野 明	准教授	博士（情報工学）	教育工学	オペレーティングシステム、コンパイラ、短期インターンシップ、データベース基礎、ソフトウェア工学、専門基礎（制御情報工学）、オブジェクト指向プログラミング、プログラミング2、情報処理演習、情報処理2、データベース、情報通信実験
松島 宏典	准教授	博士（工学）	高度道路交通システム	データサイエンスと人工知能2、応用数学2、確率統計、離散数学、創造プログラミング演習、データサイエンスと人工知能1、計算機ネットワーク、応用情報処理、パターン認識
堺 研一郎	准教授	博士（工学）	スピン磁気量子物性	電子情報実験、半導体材料工学、電磁気学、先端工学特論、加工実習、情報処理基礎、専門基礎（制御情報工学）
田中 諒	准教授	博士（工学）	システム制御理論	ロボット工学、制御工学1、CAD 演習、製図、システム制御工学、創造工学実験
古賀 裕章	准教授	博士（工学）	医用画像処理	電子回路、数値計算法、データ構造とアルゴリズム、プログラミング3、プログラミング1、電子情報実験、創造プログラミング演習、専門基礎（制御情報工学）
江崎 昇二	嘱託教授	修士（工学）	制御工学	制御工学実験、制御工学2、計測工学、シーケンス制御、加工実習、創造工学実験
全員が担当することを基本とする授業科目				制御情報工学基礎A、制御情報工学基礎B、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文、制御情報工学概論（制御）
非常勤講師			1名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
電気電子工学実験装置	本科実験科目で利用し、電子回路の理解を深める。
産業用ロボット Performer・MK-3S 1 式	本科実験科目で利用し、産業用多関節型ロボットの制御についての理解を深める。
RaspberryPi 開発キット（FaBo）14 セット	本科演習科目で利用し、マイコンやプログラミングの理解を深める。
レゴマインドストーム EV3 48 セット	本科演習科目で利用し、人工知能の理解を深める。
GPU による並列計算機サーバ7台	高速計算が可能のため、本科及び専攻科の研究で利用している。
演習用パーソナルコンピュータ 25 台	本科実験科目等で利用し、情報処理、プログラミングなどの理解を深める。
GPU による並列計算機サーバ7台	高速計算が可能のため、本科及び専攻科の研究で利用している。

5. 教育課程（令和5年度1年生基準）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門共通基礎	制御情報工学概論	1					
		化学実験		2				
		応用物理 1			2			
		応用物理 2			2			
		応用物理実験			2			
		応用数学 1				2		
		応用数学 2				1		
		確率統計				2		
		離散数学				2		
		信号処理				2		学修単位
		情報理論					2	学修単位
		工業倫理と安全					1	
	メカトロニクス	製図		1				
		加工実習		2				
		機構学		1				
		CAD 演習			1			
		機械工学概論				1		学科横断科目
		電気回路 1			2			
		電気回路 2				2		
		電子回路				2		
		電磁気学				2		
		パワーエレクトロニクス					1	
		半導体材料工学					1	
		物質工学概論					1	学科横断科目
		通信工学					1	
		電子情報実験					2	
		シーケンス制御			1			
		計測工学				1		
		制御工学 1				2		
		制御工学 2					1	
		ロボット工学					2	
		制御工学実験					2	
	情報	情報処理基礎	2					
		プログラミング 1	1					
		プログラミング 2		2				
		プログラミング 3			1			
		オブジェクト指向プログラミング			1			
		数値計算法				2		
		データ構造とアルゴリズム				1		
		データベース基礎				2		学修単位
		ソフトウェア工学				1		
		オペレーティングシステム					1	
		コンパイラ					2	学修単位
		電子計算機基礎			2			
		論理回路			2			
		ディジタル回路設計				1		
		計算機アーキテクチャ 1					1	
		計算機アーキテクチャ 2					2	学修単位
		計算機ネットワーク			1			
		情報セキュリティ			1			
		データサイエンスと人工知能 1				1		
		データサイエンスと人工知能 2					1	
		創造プログラミング演習				2		
		情報通信実験					2	
	卒業研究		7				7	
	必修科目修得小計		89	4	8	18	29	30
選択科目	短期インターンシップ	1				1		
	半導体工学概論 1	1				1		
	半導体工学概論 2	1				1		
	専門基礎（制御情報工学）	2			2			留学生のみ履修
	制御情報工学基礎 A	1				1		4 年生編入学生のみ履修
	制御情報工学基礎 B	1				1		4 年生編入学生のみ履修
	選択科目小計	0 以上				0 以上		
専門科目修得合計		89 以上	4	8	18	59 以上		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1
	選択科目	1				1	(1)
	小計	78	26	26	16	10	
専門	必修科目	89	4	8	18	29	30
	選択科目	0 以上				0 以上	
	小計	89 以上	4	8	18	59 以上	
総修得単位数		167 以上	30	34	34	69 以上	

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

生物応用化学学科

1. 概略

生物応用化学学科は、以下の教育目的・目標の下、主に化学、生物学、技術者素養に関する教育を行っています。低学年において基礎科目を幅広く学習し、4年次から応用化学コースと生物化学コースに分かれ専門的に学ぶことができることが本学科の特徴と言えます。

卒業生の半数は本科卒業後に就職し、主に総合化学工業、医療器・医薬品工業、食品工業で活躍しています。残り半数は、(国立)大学へ編入学または専攻科へ進学し、さらに高度な科目を継続して学習します。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な次の専門分野に関する専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

(両コース共通)

・化学、生物の基礎 ・化学工業、環境工学 ・情報リテラシー ・技術者素養

(応用化学コース)

・有機化学、高分子化学 ・ポリマー工学 ・機能性有機材料

(生物化学コース)

・生物有機化学 ・バイオプロセス工学 ・遺伝子細胞工学

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
石井 努	教授／学科長	博士（工学）	機能有機化学	有機金属化学、機能有機材料、機器分析、工業物理化学1、酸塩基化学、有機反応化学、有機化学実験、分析化学実験、応用化学実験
中島 裕之	教授	博士（農学）	生化学	化学工学概論（機械）、バイオ工学、遺伝子・細胞工学、生物工学実験、生物化学実験、基礎生物化学実験、分子生物学、生体機能分子学、物質工学概論、生物学2、生物応用化学概論（電気）
辻 豊	教授	博士（理学）	有機化学	有機合成化学、応用化学実験、有機化学実験、分析化学実験、化学1、教養化学
梶 隆彦	教授	博士（工学）	反応工学	化学工学概論（機械）、化学工学2、物理化学1、物理化学2、物化・化工実験、応用物理化学、化学工学概論、バイオ工学、応用化学実験、創造化学実験
笈木 宏和	教授	博士（農学）	微生物学	環境工学、有機化学2、代謝工学、情報化学2、創造工学実験、生体物質化学、生物工学実験、生物化学実験、情報化学1、基礎生物化学実験、先端工学特論
渡邊 勝宏	准教授	博士（工学）	高分子化学	高分子化学2、有機化学1、基礎有機化学2、基礎有機化学1、有機構造化学、高分子材料特論、材料工学特論、有機化学実験、分析化学実験、応用化学実験
松田 貴暁	准教授	博士（工学）	応用化学	無機化学1、基礎溶液化学、化学平衡論、高分子材料学、機能有機材料特論、機器分析、物化・化工実験、生物工学実験、有機化学実験、応用化学実験
萩原 義徳	准教授	博士（理学）	構造生物学	酵素構造工学、情報化学1、生物学1、生物学2、応用情報処理演習、技術英語、遺伝子・細胞工学、生物化学実験、基礎生物化学実験、生物工学実験
我部 篤	准教授	Doctor of Philosophy (Materials Science)	化学工学	産業財産権・工業倫理、工業物理化学2、化学工学1、創造化学実験、化学工学特論、品質・安全工学、創造工学実験、物化・化工実験、応用化学実験
中島めぐみ	助教	修士（医科学）	心身医学	生物有機化学、化学工学基礎、化学2、情報処理演習、生物学1、地球環境と現代生物学、物化・化工実験、創造化学実験、生物化学実験、生物工学実験、生物応用化学概論（電気）
全員が担当することを基本とする授業科目				科学技術史、短期インターンシップ、専攻科研究基礎、専攻科研究論文、卒業研究、生物応用化学特論、生物応用化学入門、生物応用化学概論（生化）、専門基礎（生物応用化学）
非常勤講師			6名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
核磁気共鳴装置	有機分子や生体分子の分子構造を決定できる。
PCR 装置	DNA 試料から特定の遺伝子領域を増幅し、研究や検査に利用できる。
GPC 装置	ゴム・繊維・プラスチックなどの高分子材料の分子量を決定できる。
蛍光顕微鏡	肉眼では見えない小さな生物や細胞を発光で観察できる。
原子吸光分光光度計	水溶液中の微量金属イオンの濃度を測定し、水環境分析等に利用できる。
テンシロン万能試験機	ゴム・繊維・プラスチックなどの高分子材料の力学特性を評価できる。
ゼータ電位・粒径測定システム	ナノ粒子やタンパク質の粒子径や分散安定性を評価できる。
熱分析装置	温度による物質の構造や重量の変化を評価できる。

5. 教育課程（令和5年度1年生基準）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	専門概念	生物学 2		2				
		基礎無機化学			2			学修単位
		酸塩基化学			1			
		基礎有機化学 1		1				
		基礎有機化学 2			1			
		物理化学 1			1			
		物理化学 2				1		
		無機化学 1				1		
		無機化学 2				1		学科横断科目
		有機化学 1			1			
		有機化学 2				1		
		高分子化学 1				1		
	専門分野Ⅰ	有機金属化学				1		
		有機合成化学				1		
		高分子化学 2				1		
		機能有機材料				1		
		応用化学実験				3		
		ポリマー工学					2	学修単位
	専門分野Ⅱ	生物有機化学				1		
		遺伝子・細胞工学				2		
		代謝工学				1		
		生物工学実験				3		
		バイオ工学					2	学修単位
	設計・開発	化学工学 1				2		
		化学工学 2					4	学修単位
		機器分析				2		
		工業物理化学 1				1		
		工業物理化学 2					1	
		機械工学概論					1	学科横断科目
		電気電子工学概論					1	学科横断科目
	専門関連分野	基礎溶液化学		1				
		化学平衡論		1				
		酵素構造工学			2			学修単位
		応用数学				2		
		応用物理 1			2			
		応用物理 2			2			
		応用物理実験			2			
		環境工学					2	学修単位
		情報化学 1		2				
		情報化学 2			1			
		化学工学基礎			1			
		情報処理演習				2		学修単位・学科横断科目
		創造化学実験	2					
		分析化学実験		2				
		基礎生物化学実験		3				
		有機化学実験			3			
		生物化学実験			3			
		物化・化工実験				3		
		生物応用化学入門	1	1				
		品質・安全工学				2		学修単位
		産業財産権・工業倫理					2	学修単位
		卒業研究	11				11	
		工業英語	1				1	
	必修科目修得小計		88	3	12	22	33	27
選択科目	科学技術史	1				1	(1)	
	短期インターンシップ	1				1		1 単位以上
	半導体工学概論 1	1				1		
	半導体工学概論 2	1				1		
	専門基礎（生物応用化学）	2			2			留学生のみ履修
	生物応用化学概論	1				1		4 年生編入学生のみ履修
	選択科目修得小計	1 以上				1 以上		
専門科目修得合計		89 以上	3	12	22	52 以上		

修得単位数総計

一般	必修科目	77	27	25	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	27	25	16	10		
専門	必修科目	88	3	12	22	26	25	
	選択科目	1 以上				1 以上		
	小計	89 以上	3	12	22	52 以上		
総修得単位数		167 以上	30	37	38	62 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

材料システム工学科

1. 概略

材料システム工学科は、以下の教育目的・目標の下、私たちの生活を支える優れた製品を創り出すために、その基礎となる材料の知識や技術を修得するための教育、それらの知見に基づいた新しい材料や機能性を高めた材料を開発するための研究を行っています。

この学科を卒業する学生には、将来のものづくりを支える技術者になって欲しいと願い、実験・実習を多く取り入れた実践的な教育を進めています。材料工学を学ぶことができる高専は、全国には4高専しかなく、このことは本学科の特徴となっています。

卒業生は、主に鉄鋼・非鉄等の素材メーカーをはじめ、機械、輸送機器、電機、エネルギー等の産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

(2) 教育目標

金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・構造、性質、機能
- ・製造プロセス、加工、リサイクルに関する技術
- ・設計、解析、評価
- ・材料工学に関連した周辺知識

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
山本 郁	教授／学科長	博士（工学）	材料組織制御	融体加工学、塑性加工学、材料工学概論、専門基礎（材料システム工学）、材料システム実験2、基礎設計製図、図学、材料工学特論、材料システム実験5、材料組織制御
奥山 哲也	教授	工学博士	固体物性	電気電子材料、材料物性学2、工業英語、材料物性学1、材料システム実験4、結晶構造解析学、半導体材料
川上 雄士	教授	博士（工学）	金属加工学	品質工学、金属材料学2、金属熱処理論、金属物理学1、材料加工実習、専攻科特論一般Ⅰ、専攻科特論一般Ⅱ、専攻科特論専門Ⅰ、専攻科特論専門Ⅱ、先端工学特論、材料システム実験4、材料システム実験5、専攻科インターンシップ、創造工学実験、構造材料学
森園 靖浩	教授	博士（工学）	材料組織学	材料システム工学概論（機械）、接合工学・複合材料、金属材料学1、材料組織学、材料システム実験2、輸送現象論
岩田 憲幸	教授	博士（工学）	材料化学	セラミックス材料学2、セラミックス材料学1、材料システム実験1、基礎材料化学、機能性無機材料学、工業英語、材料システム実験4
矢野 正明	准教授	博士（工学）	電気化学	環境工学、電気化学2、電気化学1、材料システム実験3、物理化学1、材料システム実験5、表面処理工学
周 致霆	准教授	博士（工学）	構造材料物性学	物質工学概論、材料評価学、金属物理学2、情報処理1、専門基礎（材料システム工学）、材料システム実験2、高温強度学
清長 友和	准教授	博士（工学）	材料化学	短期インターンシップ、物理化学2、材料化学1、材料システム実験3、工業英語、専門基礎（材料システム工学）、触媒材料化学
佐々木大輔	助教	博士（工学）	材料強度学	材料強度学、応用設計製図・CAE、機械加工学、材料システム実験5、応用情報処理演習
小袋 由貴	助教	博士（工学）	材料化学	無機化学2、材料化学2、情報リテラシー、情報処理1、材料システム実験1、工業英語、技術英語
全員が担当することを基本とする授業科目				材料システム工学入門、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
非常勤講師			4名	

4. 主な教育研究用設備

設備名称	本設備による教育研究上の効果
透過型電子顕微鏡	材料内部の構造解析や原子レベルの観察・分析するための装置です。
電界放射型電子顕微鏡	材料の組織を高倍率で観察できます。元素分析装置も付いています。
X線回折分析装置	X線を照射し、それにより得られる回折ピークから物質を同定できます。
ICP発光分光分析装置	溶液中に含まれる元素を分析するためには欠かせない装置です。
走査型X線光電子分光分析装置	材料の極表面付近の化学結合状態を分析・評価できます。
高温引張試験装置	材料の引張強さを室温だけでなく、高温でも測定できます。
マイクロビッカース硬さ試験機	材料表面におけるミクロンレベルの領域の硬さを測定できます。
計装化シャルピー衝撃試験機	材料が破壊するときのエネルギーを測定し、強靱さを評価します。

5. 教育課程（令和5年度1年生基準）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	材料システム工学入門	2	2					
	情報リテラシー	1		1				
	情報処理1	1		1				
	情報処理2	1				1		学科横断科目
	応用数学1	2				2		
	応用数学2	1				1		
	応用数学3	1					1	
	応用物理1	2			2			
	応用物理2	2			2			
	材料加工実習	3	3					
	図学	1	1					
	基礎設計製図	1		1				
	応用設計製図・CAE	2				2		
	電気電子工学概論	1				1		学科横断科目
	機械加工工学	1			1			
	基礎材料化学	2		2				
	セラミックス材料学1	1			1			
	セラミックス材料学2	1				1		
	材料化学1	2			2			
	材料化学2	2				2		
	物理化学1	2			2			
	物理化学2	2				2		
	高分子材料学	1					1	学科横断科目
	電気化学1	1				1		
	電気化学2	1					1	
	環境工学	1					1	
	金属物理学1	2			2			
	金属物理学2	1				1		
	材料物性学1	1				1		
	材料物性学2	2					2	
	材料力学	2			2			
	塑性加工工学	2				2		
	材料組織学	1			1			
	材料強度学	2					2	学修単位
	金属材料学1	2				2		
	金属材料学2	2					2	学修単位
	融体加工工学	1					1	
	材料評価学	2					2	学修単位
	工業英語	2				2		学修単位
	安全工学・工業倫理	1					1	学科横断科目
	品質工学	1					1	
	化学実験	2		2				
	応用物理実験	2			2			
	材料システム実験1	2		2				
	材料システム実験2	2			2			
	材料システム実験3	3				3		
	材料システム実験4	3				3		
	材料システム実験5	3					3	
	卒業研究	9					9	
必修科目修得小計		88	6	9	19	27	27	
選択科目	短期インターンシップ	1				1		
	半導体工学概論1	1				1		
	半導体工学概論2	1				1		
	接合工学・複合材料	1					1	1単位以上修得
	金属熱処理論	1					1	
	専門基礎（材料システム工学）	2			2			留学生のみ履修
	材料工学概論	1				1		4年生編入学生のみ履修
選択科目修得小計		1 以上				1 以上		
専門科目修得合計		89 以上	6	9	19	55 以上		
修得単位数総計								
一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16	10		
専門	必修科目	88	6	9	19	27	27	
	選択科目	1 以上				1 以上		
	小計	89 以上	6	9	19	55 以上		
総修得単位数		167 以上	32	35	35	65 以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

専攻科

1. 概略

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導するために置かれる組織です。

本校は、高等専門学校卒業生に対して、継続性のあるより高度な技術者教育を行うことを目的として、平成5年に九州で初めて専攻科を設置しました。

本校専攻科は、修業年限2年の機械・電気システム工学専攻（3コース）及び物質工学専攻（2コース）から成り、更に高度な専門知識を追求するだけではなく、充実した実験、研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

なお、本校専攻科の修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、同機構が通常課している試験を受験することなく学士号を授与されます。

本 科					専 攻 科		
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年		1 年	2 年
機 械 工 学 科					機械・電気システム工学専攻	機 械 工 学 コー ス	
電 気 電 子 工 学 科						電 気 電 子 工 学 コー ス	
制 御 情 報 工 学 科						制 御 情 報 工 学 コー ス	
生 物 応 用 化 学 科					物質工学専攻	生 物 応 用 化 学 コー ス	
材 料 シ ス テ ム 工 学 科						材 料 工 学 コー ス	

2. 特色

専攻科は少人数定員の特性を活かした充実した教育研究環境を備え、本科との継続性を重視した教育を行っています。

なお、修得した工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを経験させるためインターンシップを選択科目に設け、実践的技術者としての資質を高める教育課程を設定しています。

また、工学に関するテーマを学生自身で立案し、それを解決するための計画、実験、評価を各自で行う創造工学実験を必修科目に設けることで、自主性、創造性並びに行動力の向上を図っています。

3. 教育目的

次のような実践的、創造的技術者の育成を目的とする。

- 1 先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
- 2 創造的研究開発能力を持った技術者
- 3 国際化に対応できる技術者

4. 専攻ごとの教育目標

◆機械・電気システム工学専攻

機械、電気電子、制御情報に関するより深い専門知識を教授し、これらの知識を総合的に活用し、様々な問題解決ができる技術者を育成する。

◆物質工学専攻

有機、無機、ポリマー、金属材料及びバイオ技術に関するより深い専門知識を教授し、新物質の開発や製造プロセス技術に対応できる技術者を育成する。

5. コースごとの教育目標

◆ 機械工学コース

- ア 技術者倫理
- イ 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力
- ウ 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成
- エ 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得
- オ 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- カ 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- キ 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション
- ク 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

◆ 制御情報工学コース

- ア 技術者としての広い視野と倫理観
- イ 基礎工学の知識と応用力
- ウ 専門工学の知識と応用力
- エ デザイン力
- オ コミュニケーション力
- カ 実践力

◆ 電気電子工学コース

- ア 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
- イ 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
- ウ もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
- エ 電気電子技術の基礎となる学力の修得
- オ 技術に関するコミュニケーション能力の育成
- カ 技術者倫理感覚の育成
- キ 企画・管理能力の育成

◆ 生物応用化学コース

- ア 技術者倫理と多面的視野
- イ 生物応用化学基礎と工学基礎
- ウ 生物応用化学の専門知識と応用力
- エ 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- オ 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- カ 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- キ 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

◆ 材料工学コース

- ア 自然科学及び情報処理技術に関する知識
- イ 材料に関する基礎的知識と応用力
- ウ 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解能力
- エ 調査及び実行能力
- オ 異文化理解とコミュニケーション能力
- カ 多面的視野と技術者倫理
- キ 地域産業での実務経験

6. 教育課程（令和5年度1年生基準）

(1) 各専攻・コース共通

授業科目			授業形態	単位	学年別配当		備考
					1 年次	2 年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	講義	2	2		
		実践英語Ⅱ	講義	2	2		
		実践英語Ⅲ	講義	2		2	
	一般科目必修単位計			6	4	2	
	選択	日本語コミュニケーション	講義	2		2	2 単位以上修得
		生涯スポーツ特論	講義	2		2	
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2	2		4 単位以内
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2		2	
	一般科目選択開設単位計			8	2	6	
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2		
		現代物理学	講義	2	2		
		応用情報処理演習	演習	2	2		
		専門基礎科目必修単位小計			6	6	0
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2		10 単位以上修得
		応用数理Ⅱ	講義	2	2		
		応用数理Ⅲ	講義	2		2	
		量子力学	講義	2	2		
		教養化学	講義	2	2		
		画像工学	講義	2	2		
		応用情報処理	講義	2	2		
		統計力学及び熱力学	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2	4 単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2	
専門基礎科目選択開設単位小計			20	12	8		
専門基礎科目開設単位計			26	18	8		
一般科目、専門基礎科目開設単位合計			40	24	16		

(2) 機械・電気システム工学専攻

授業科目			授業 形態	単位数	学年別配当		備考			
					1 年次	2 年次				
専 門 科 目	必修	創造工学実験	実験	2	2					
		技術英語	演習	1		1				
		先端工学特論	講義	2	2					
		専攻科研究基礎	実験	4	4					
		専攻科研究論文	実験	10		10	学位申請等論文			
		専門科目必修単位小計			19	8	11			
	選択	弾塑性力学	講義	2	2		A	*	*	
		破壊力学	講義	2	2		A	*	*	
		応用流動工学	講義	2	2		A	*	*	
		生産加工学	講義	2		2	A	*	*	
		移動現象論	講義	2	2		A	*	*	
		計算力学	講義	2		2	A	S	*	
		設計システム工学	講義	2	2		A	*	E	
		メカトロニクス工学	講義	2		2	A	S	E	
		システム制御工学	講義	2	2		A	S	E	
		デジタル制御	講義	2	2		A	S	E	
		労働安全衛生論	講義	2		2	A	*	*	
		コンピュータグラフィックス	講義	2		2	*	S	*	
		パターン認識	講義	2		2	*	S	*	
		形式言語とオートマトン	講義	2	2		*	S	E	
		データベース	講義	2	2		*	S	*	
		コンピュータサイエンス	講義	2		2	*	S	E	
		応用電磁気学	講義	2	2		*	S	E	
		光エレクトロニクス	講義	2		2	*	*	E	
		集積回路工学	講義	2	2		*	*	E	
		デジタル信号処理	講義	2	2		*	S	E	
		プラズマ工学	講義	2		2	*	*	E	
		機械工学特論	講義	2	2		集中講義			
		電気電子工学特論	講義	2	2		集中講義			
		制御情報工学特論	講義	2	2		集中講義			
		専攻科インターンシップ	実習	2	2		A	S	E	
		専門科目選択開設単位小計			50	32	18	A、S、E の各区分 30 単位から 14 単位 以上、修得のこと。		
		専門科目開設単位計			69	40	29			
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)				109	64	45				
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)				62 単位以上						
全開設単位合計 (機械工学系)				89	54	35	備考欄の*は 他専攻扱いの科目 (4 単位以内)			
全開設単位合計 (制御情報系)				89	52	37				
全開設単位合計 (電気電子系)				89	54	35				

※Aは機械工学系、Sは制御情報系、Eは電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

授業科目			授業 形態	単位数	学年別配当		備考		
					1 年次	2 年次			
必修		創造工学実験	実験	2	2				
		技術英語	演習	1		1			
		先端工学特論	講義	2	2				
		専攻科学研究基礎	実験	4	4				
		専攻科学研究論文	実験	10		10	学位申請等論文		
		専門科目必修単位小計		19	8	11			
専門科目 選択		有機反応化学	講義	2	2		C	*	
		有機構造化学	講義	2		2	C	*	
		生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
		生体物質化学	講義	2	2		C	*	
		化学工学特論	講義	2		2	C	*	
		機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
		分子生物学	講義	2		2	C	M	
		分子機能化学	講義	2		2	C	M	
		高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
		応用物理化学	講義	2		2	C	M	
		機能性無機材料学	講義	2	2		C	M	
		半導体材料	講義	2	2		C	M	
		材料組織制御	講義	2		2	*	M	
		構造材料学	講義	2	2		*	M	
		触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
		表面処理工学	講義	2	2		*	M	
		高温強度学	講義	2		2	*	M	
		輸送現象論	講義	2	2		*	M	
		結晶構造解析学	講義	2	2		*	M	
		生物応用化学特論	講義	2	2		集中講義		
		材料工学特論	講義	2	2		集中講義		
		専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M	
		専門科目選択開設単位小計			44	30	14	C及びMともそれぞれ 30 単位中 14 単位以上修得のこと。	
		専門科目開設単位計			63	38	25		
	全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)				103	62	41		
	全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)				62 単位以上				
	開設単位合計 (生物応用化学系)				89	52	37	備考欄の*は 他専攻扱いの科目 (4 単位以内)	
	開設単位合計 (材料工学系)				89	54	35		

※Cは生物応用化学系、Mは材料工学系の履修科目を示す。

図書館

1. 概略

1階の図書館スペースには、グループ学習スペース、個別学習ブース、閲覧室があり、閲覧室内には DVD 等を鑑賞できる AV ルームや直木賞作家であり本校の卒業生である安部龍太郎氏のコーナーを設置しています。閲覧室内は工学系専門書、参考書をはじめ、文学作品や人文社会系、語学系と多数の図書を配架しています。また、本校学生・教職員だけでなく、学外の方への利用開放も行っています。

2. 蔵書等

(1) 蔵書冊数

令和5年4月1日現在

分類	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	その他	合計
和書	3,560	5,130	5,882	5,214	15,794	16,770	469	2,494	2,430	11,139	17,155	86,037
洋書	100	23	97	75	2,147	1,501	15	7	1,582	1,015	226	6,788
合計	3,660	5,153	5,979	5,289	17,941	18,271	484	2,501	4,012	12,154	17,381	92,825

(2) データベース・電子ジャーナル

令和5年4月1日現在

名称	内容
Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル
AIP	米国物理学協会（American Institute of Physics）の電子ジャーナル
APS	米国物理学会（American Physical Society）の電子ジャーナル
JDream III	科学技術振興機構提供（JOIS の Web 版）データベース
MathSciNet	AMS 製作による、学術論文書誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース
ACS	米国化学会（American Chemical Society）の電子ジャーナル
Science	アメリカ科学振興協会（American Association for the Advancement of Science）の電子ジャーナル
CiNii	学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベース等、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス



学生相談室・保健室

学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。

学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員（教員）・看護師・カウンセラー・ソーシャルワーカー・精神科医（必要に応じて来校）で構成されています。

カウンセラー及びソーシャルワーカー並びに精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。

学生相談室の活動は Web ページでも確認することができます。学生だけでなく、保護者や担任の先生からの相談も受け付けています。



学生相談室



保健室

ものづくり教育センター

ものづくり教育センターは“ものをつくる基礎技術”をベースに、IT 技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者の育成と、産業界への技術的な貢献が可能な施設です。

従来の基礎的な実習（木型・鋳造・鍛造・溶接・機械加工・手仕上げ）を行う設備を確保しつつ、3D プリンタや NC 工作機械を導入し、IT 技術を応用したものづくり教育に対応できる実習環境です。



ワイヤー放電加工機



機械加工実験実習室

総合情報センター

総合情報センターは「Information」、「Communication」および「Computing」に関連する業務全体の組織的運用を目指しており、情報を積極的に提供あるいは活用して、本校の情報処理を合理的かつ効率的に実行し、教育・研究の支援を行うとともに事務系業務の合理化を推進しています。



第一 IT 演習室

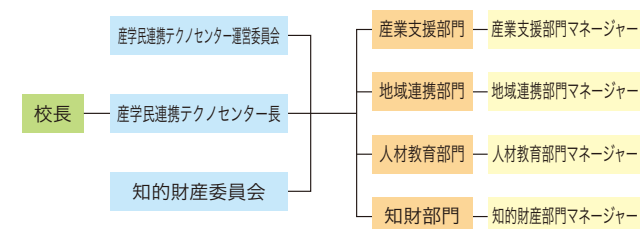


多目的室

産学民連携テクノセンター

産学民連携テクノセンターは、下図の組織構成により本校の教育研究の発展に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育の進行に資することを目指します。

産学民連携テクノセンター組織図



産学民連携テクノセンターのミッション

》地域産業界・民間企業との連携

共同研究等の連携制度により、民間企業等の研究内容、テーマ及びニーズに対応しています。

また、テクノネット久留米と連携し、地場産業の高度化、産業力強化のための研究を推進しています。

》地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く開放し、各種公開講座を解説しています。

》初等・中等教育機関との連携

高専の持つ教育資源を活用し、地域の初等中等教育機関への支援を行っています。

》大学・高専などの高等教育機関との連携

高等教育コンソーシアム久留米等との連携を基礎に、フォーラム、講演会、セミナー等を実施しています。

》教育・研究資源の情報発信

本校の刊行物等を通じて研究者の教育・研究資源情報を発信しています。

キャリア支援室

キャリア支援室は、「低学年から高学年までの高専生活全体に渡る、就職・進学を網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的として活動しています。学生の進路指導は、就職主任の教員や5年担任の教員を中心に、各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした細やかな指導や助言を行っています。各学科には、学生が就職・進学に関する情報を自由に閲覧、アクセスできるようにするために、進路指導室やスペースを設け進学・就職の関連資料を提供しています。

学校行事としての本科4年時における工場見学旅行の他に関係部門と協力しながら次のような取り組みを実施しています。

- (1) 本科及び専攻科インターンシップ
- (2) 卒業生・修了生によるキャリア教育講演会や企業説明会
- (3) 大学編入や大学院進学の実績がある大学等による説明会
- (4) キャリアアップセミナーなどの講演会
- (5) TOEIC や SPI 模試など進路に関する試験

進路選択のさらなるサポートと共に、学生の将来の目標を見据えた、日々の学習モチベーションアップも目指しています。



キャリアアップセミナー



進路指導・資料用スペース（材料システム工学科）の例）

学生寮

1. 概略

本校の学生寮は、男子学生のための「筑水寮」と女子学生のための「つつじ寮」の二棟からなります。筑水寮は、その名を本校の傍を流れる筑後川に由来し、久留米高専設立当初から続く伝統のある寮です。また、つつじ寮は2012年に建設され、久留米市の市花「久留米つつじ」から名付けられました。主にアジア圏からの留学生や特別聴講生を含め191名（男子161名、女子30名）の寮生が生活を共にしています。

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む、寮生会役員が中心となって行われております。勉強以外にも、寮生会が中心となって、寮祭、防災訓練、外部寮視察、テーブルマナー講習会、ヘルスチェックキャンペーン等、一年を通して様々な活動を行っています。

寮の出入口はオートロック方式で警備され、3年生までは二人部屋、4年生以上は個室です。エアコンも完備され、インターネットへのアクセスも可能です。寮内の食堂では、栄養のバランスを考慮した食事が提供されており、健康で安心して生活できるよう配慮されています。



筑水寮居室



つつじ寮居室



寮食堂

2. 入寮者数

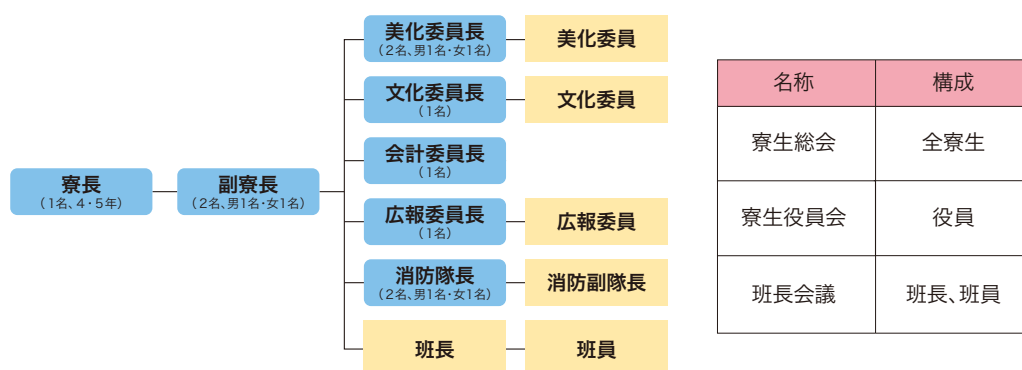
令和5年4月1日現在

区分	本科					専攻科		合計
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
男	31 (0)	27 (0)	32 (3)	33 (1)	31 (3)	4 (0)	3 (0)	161 (7)
女	4 (0)	8 (0)	8 (1)	7 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (1)
合計	35 (0)	35 (0)	40 (4)	40 (1)	34 (3)	4 (0)	3 (0)	191 (8)

※（ ）内の数値は留学生数で内数。

3. 寮生会

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む寮生会が中心となって行われています。



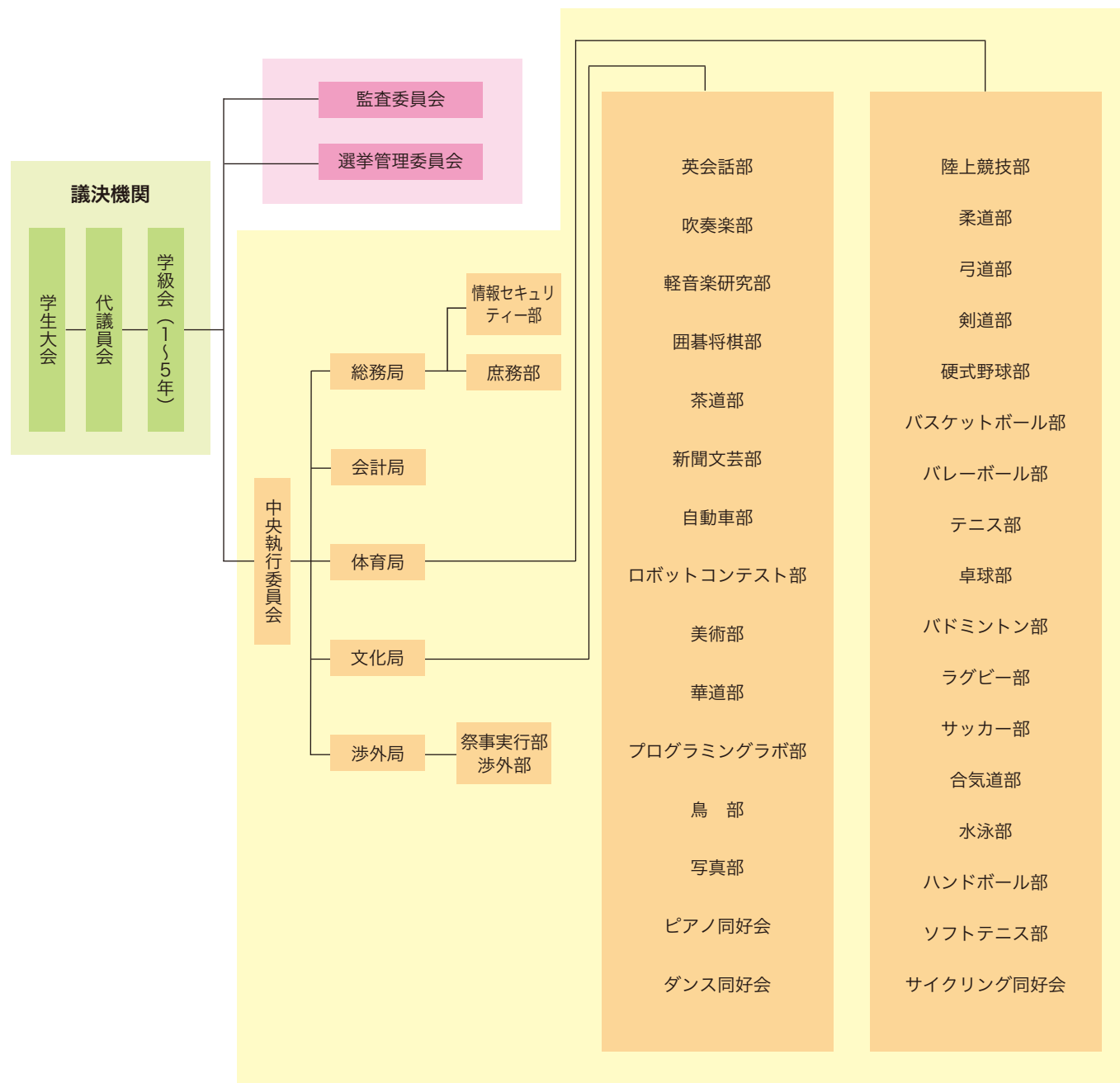
4. 年間行事

4月 ・開寮 ・新入寮生保護者説明会 ・対面式・寮生会 ・ゴミ分別講習会 ・第1回食堂&寮生会懇談会 ・避難訓練	5月 ・寮祭 ・寮生保護者総会	6月 ・外部視察 ・ヘルスチェックキャンペーン ・テーブルマナー講習会 ・第2回食堂&寮生会懇談会	8月 ・大掃除 ・閉寮	10月 ・開寮 ・第3回食堂 & 寮生会懇談会 ・非常食シュミレーション ・防災訓練
11月 ・料理教室	12月 ・第4回食堂 & 寮生会懇談会 ・寮祭 ・大掃除 ・閉寮	1月 ・開寮 ・寮成人式 ・寮生総会	3月 ・閉寮	

学生会

1. 概略

本校学生会は、学生相互の自治活動を通じて相互の調和、学芸の研究及び民主的社会人としての心身の修養に努め、もって学生生活の向上を図ることを目的としており、下図のとおり組織されています。



2. 年間行事

4月・クラブ紹介

5月・学生大会

6月・クラスマッチ
・文化部発表会
・献血

8月・校内一斉清掃

11月・高専祭
・ビジネスマナー講習会

12月・クラスマッチ
・学生大会

1月・予餞会

3月・校内一斉清掃

入学・在学状況

1. 定員・現員

令和5年5月1日現在

学科等	入学定員	総定員	現 員							
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	計		
本科	200	1,000	212 (58) [-]	213 (43) [-]	224 (56) [4]	206 (44) [1]	201 (46) [3]	1,056 (247) [8]		
機 械 工 学 科	40	200	41 (5) [-]	44 (5) [-]	48 (6) [1]	43 (5) [-]	39 (6) [-]	215 (27) [1]		
電 気 電 子 工 学 科	40	200	42 (7) [-]	43 (4) [-]	40 (1) [-]	41 (4) [1]	46 (6) [1]	212 (22) [1]		
制 御 情 報 工 学 科	40	200	43 (6) [-]	43 (3) [-]	42 (7) [1]	43 (4) [1]	42 (9) [1]	213 (29) [3]		
生 物 応 用 化 学 科	40	200	43 (28) [1]	39 (17) [-]	49 (28) [1]	38 (20) [-]	36 (12) [1]	205 (105) [1]		
材料システム工学科	40	200	43 (12) [-]	44 (14) [-]	45 (14) [1]	41 (11) [-]	38 (13) [1]	211 (64) [2]		
専攻科	20	40	39 (5) [-]	38 (6) [-]				77 (11) [-]		
機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	12	24	21 (1) [-]	26 (2) [-]				47 (3) [-]		
物 質 工 学 専 攻	8	16	18 (4) [-]	12 (4) [-]				30 (8) [-]		

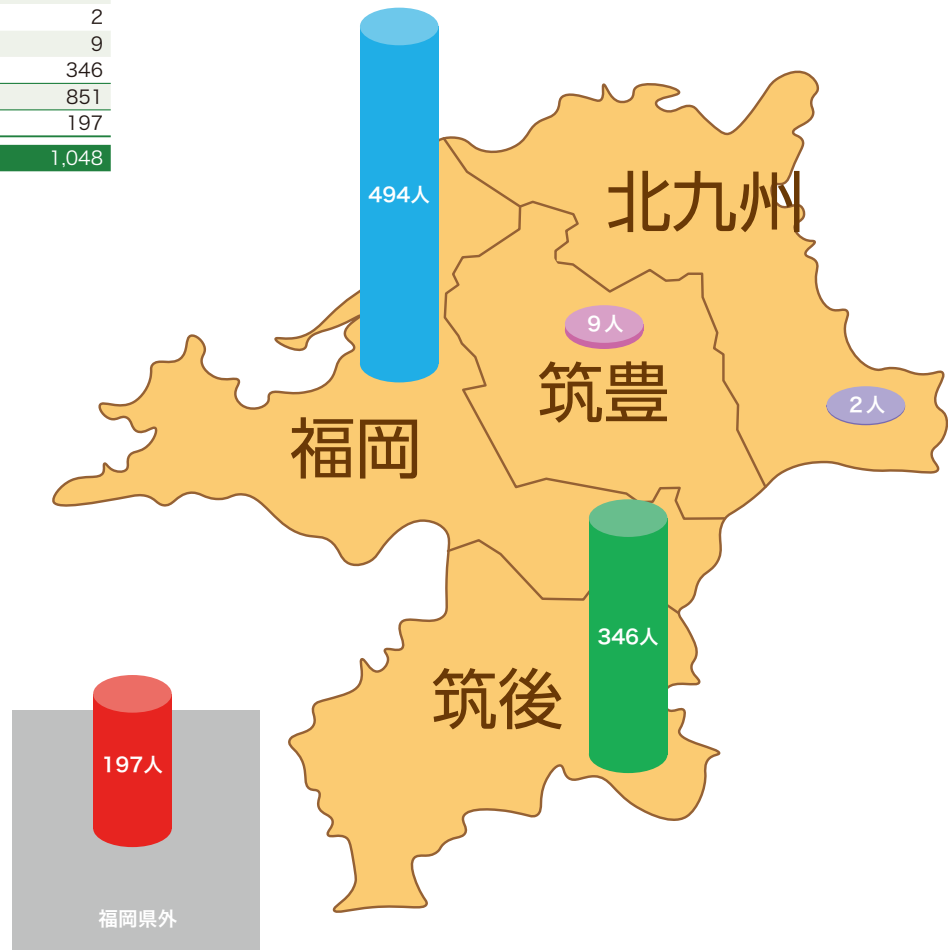
() は女子数で内数
[] は留学生数で内数

2. 出身中学別学生数

令和5年5月1日現在

出身中学所在地	学生数
福岡県内	
福岡地域	494
北九州地域	2
筑豊地域	9
筑後地域	346
県内小計	851
福岡県外	197
総 合 計	1,048

※留学生は除く。



卒業・修了状況

1. 卒業・修了者数（令和4年度）

卒業・修了者	本科						専攻科		
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
卒業・修了者	32 (4)	37 (2)	38 (7)	35 (16)	40 (18)	182 (47)	23 (0)	15 (3)	38 (3)
内 就職	19 (4)	13 (1)	13 (6)	13 (8)	19 (9)	77 (28)	13 (0)	4 (1)	17 (1)
内 進学	11 (0)	22 (1)	21 (1)	20 (7)	20 (8)	94 (17)	9 (0)	11 (2)	20 (2)
内 その他	2 (0)	2 (0)	4 (0)	2 (1)	1 (1)	8 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)

() は女子で内数

2. 進学状況（令和4年度）

(1) 本科

進学先	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計
東北大学 工学部			1			1
筑波大学 理工学群	1					1
筑波大学 情報学群			2			2
群馬大学 情報学部			1			1
千葉大学 工学部	1	1				2
東京工業大学 情報理工学院			1			1
新潟大学 理学部				1		1
長岡技術科学大学 工学部		1		2	2	5
富山大学 都市デザイン学部					1	1
豊橋技術科学大学 工学部	1	3	1	6	1	12
京都大学 工学部	1					1
京都工芸繊維大学 工芸科学部	1					1
大阪大学 工学部		1				1
大阪府立大学 工学域					1	1
山口東京理科大学 工学部				1		1
愛媛大学 工学部				1		1
九州大学 工学部	2			1	1	6
九州工業大学 情報工学部		2	3	1		6
九州工業大学 工学部					1	1
佐賀大学 理工学部	1	1		1	1	4
長崎大学 経済学部		1				1
熊本大学 工学部		2	3		1	6
本校専攻科	3	8	9	6	11	37
合計	11	22	21	20	20	94

(2) 専攻科

進学先	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
東北大学大学院	1		1
東京工業大学大学院	1		1
静岡大学大学院	1		1
大阪大学大学院		1	1
大阪工業大学大学院		1	1
九州大学大学院	6	9	15
合計	9	11	20

3. 就職状況

(1) 本科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数					就職率 (%)
				九州地区	関西地区	関東地区	その他	計	
平成 30 年度	87	3,787	44	25	8	42	12	87	100%
令和元年度	94	3,675	39	17	19	51	7	94	100%
令和2年度	98	3,501	36	19	12	57	7	98	100%
令和3年度	107	3,318	31	37	12	43	13	105	98%
令和4年度	79	3,532	45	28	7	32	10	77	97%

(2) 専攻科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数			就職率 (%)
				福岡県内	福岡県外	計	
平成 30 年度	13	1,335	103	3	10	13	100%
令和元年度	9	1,304	145	3	6	9	100%
令和2年度	19	1,311	69	5	14	19	100%
令和3年度	23	1,249	54	4	19	23	100%
令和4年度	18	1,317	73	3	14	17	94%

(3) 産業別就職状況（令和4年度）

区分	学科	本科						専攻科		
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	1					1			0
	化学工業・石油・石炭製品製造業				8	3	11		2	2
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	3			1	5	9			0
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	5	2		1	3	11	2	1	3
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	4	1		1	2	8	3		3
	電気・情報通信機械器具製造業	2	1		1		4			0
	輸送用機械器具製造業						0	2		2
	その他の製造業	1			2	2	5			0
建設業	建設業	1	1				2			0
	電気・ガス・熱供給・水道業		4			1	5			0
	情報通信業	1	4		8		13	2		2
	卸売業・小売業					1	1			0
	金融業・保険業				1		1	1		1
	学術研究・専門・技術サービス業				3	1	4	3		3
	公務	1					1		1	1
	その他					1	1			0
	合計	19	13	13	13	19	77	13	4	17

(4) 主な就職先機関名称（令和4年度）

本科					専攻科
機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	専攻科
セイコーエプソン株式会社 ファナック株式会社 株式会社小松製作所 パナソニックエンターテインメント & コミュニケーション株式会社 株式会社ニコン 株式会社 LIXIL 東京エレクトロン株式会社 株式会社九電工 日本精工九州株式会社 西部電機株式会社	JapanAdvancedSemiconductorManufacturing 株式会社 株式会社 J-POWER ハイテック株式会社メンバーズ 株式会社日立ビルシステム 九州電力株式会社 村田機械株式会社 中部電力株式会社 日本原子力発電株式会社 富士電機株式会社	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 キヤノンメディカルシステムズ株式会社 デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社 CTC システムマネジメント株式会社 日立物流ソフトウェア株式会社 九電テクノシステムズ株式会社 武井電機工業株式会社 株式会社富士通エフサス 株式会社クボタ 株式会社 FIXER	MHI ソリューションテクノロジーズ株式会社 アステラス製薬株式会社 ニプロ株式会社 旭化成株式会社 株式会社三井化学分析センター 株式会社西部技研 京セラ株式会社 小川香料株式会社 第一三共ケミカルファーマ株式会社 第一三共プロファーマ株式会社	JX 金属株式会社 UBE 株式会社 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 株式会社アーステクニカ 株式会社三井三池製作所 株式会社資生堂 京セラ株式会社 三谷伸銅株式会社 日之出水道機器株式会社 日本タングステン株式会社	JapanAdvancedSemiconductorManufacturing 株式会社 TOTO 株式会社 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 ソフトバンク株式会社 トヨタ自動車株式会社 株式会社日産オートモーティブテクノロジー 富士通クラウドテクノロジーズ株式会社 株式会社タカギ 株式会社東洋新薬 沢井製薬株式会社

研究活動

1. 産学連携

(金額単位：千円)

制度名	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	15	11,804	13	12,660	8	5,478	7	3,941	12	7,890
受託研究	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4,980
奨学寄附金	19	8,980	15	9,130	15	10,502	14	10,303	22	17,781

※奨学寄附金には、創基 75 周年・高専創立 50 周年記念基金は含まない。

2. 科学研究費補助金等

(1) 科学研究費補助金

(金額単位：千円)

種目	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
基盤研究 (B)	脱炭素社会への過渡期を担うファインバブル燃料の製造・品質・輸送・燃焼技術の研究開発	令和 5 年度～令和 7 年度	機械工学科	教授	中武 靖仁	12,870
基盤研究 (C)	赤外線カメラを用いたレドックスフロー電池のセル内流動状態の可視化	令和 2 年度～令和 5 年度	機械工学科	教授	田中 大	期間延長
	囲い込み制御理論の進展と安全接触可能な高応答多リンクシステムの開発と応用	令和 2 年度～令和 5 年度	機械工学科	准教授	南山 靖博	期間延長
	11 ノルム損失における畳み込み型スパース表現と分散圧縮符号化・深層学習への展開	令和 2 年度～令和 5 年度	制御情報工学科	教授	黒木 祥光	期間延長
	ヒト運動抑制機能へ運動強度が及ぼす影響について	令和 2 年度～令和 5 年度	一般科目 (文科系)	准教授	赤塚 康介	期間延長
	揚・抗力型ハイブリッドによる高出力・高稼働率垂直軸風車のフィージビリティスタディ	令和 3 年度～令和 5 年度	機械工学科	教授	谷野 忠和	260
	大気中のラマン散乱現象を利用したレーザービーム品質の非接触モニタリング	令和 4 年度～令和 6 年度	電気電子工学科	教授	宮崎 浩一	910
	意味構造と統語構造の統合学習を用いた文書作成支援アプリケーションの開発	令和 3 年度～令和 5 年度	制御情報工学科	教授	小田 幹雄	520
	道路損傷検出及び地図更新のための自己学習型車載スマートビジョンシステムの開発	令和 3 年度～令和 5 年度	制御情報工学科	准教授	松島 宏典	1,170
	長波長領域に長寿命発光を示す会合性リン光色素の創出	令和 3 年度～令和 5 年度	生物応用化学科	教授	石井 努	1,040
	ゴム分解微生物の分解遺伝子特定に関する研究	令和 3 年度～令和 5 年度	生物応用化学科	教授	笈木 宏和	390
	ナノスケール超空間でのアーキテクトニクス分子センシングシートの創成	令和 4 年度～令和 6 年度	材料システム工学科	教授	奥山 哲也	1,560
	二酸化炭素の発生を抑えた鋼の新規浸炭法の提案と応用	令和 4 年度～令和 6 年度	材料システム工学科	教授	森園 靖浩	910
	「東地中海地域圏」の構築—13-14 世紀のジュチ・ウルスを中心に—	令和 3 年度～令和 5 年度	一般科目 (文科系)	准教授	岡本 和也	390
	マルチメディアと AL による数学の深い学びへの誘いとその効果の検証	令和 3 年度～令和 5 年度	一般科目 (理科系)	教授	酒井 道宏	520
	楕円ファイバーカラビ・ヤウ空間における非小型特異点の研究	令和 4 年度～令和 6 年度	一般科目 (理科系)	准教授	谷 太郎	390
	MR ブレーキの力制御による安全接触可能な多リンクシステムの構築と安全制御理論の進展	令和 5 年度～令和 7 年度	機械工学科	准教授	南山 靖博	2,470
	風車翼への応用を目指した連続観察に基づくスギの疲労損傷メカニズムに関する研究	令和 5 年度～令和 7 年度	機械工学科	准教授	青野 雄太	2,860
	大規模データを用いて作成した畳み込み型スパース辞書による分散圧縮符号化と深層学習	令和 5 年度～令和 7 年度	制御情報工学科	教授	黒木 祥光	1,950
	共起辞書と AI 技術を用いた日本人英語学習者のためのリーダビリティ予測モデルの開発	令和 5 年度～令和 7 年度	制御情報工学科	准教授	中野 明	1,040
挑戦的研究 (萌芽)	With コロナ新時代のアナログ手法と ICT を活用した課題解決型実験ノート指導	令和 3 年度～令和 5 年度	電気電子工学科	教授	越地 尚宏	1,300
若手研究	超音速粒子衝突による光触媒酸化チタン粒子の固定化	令和 2 年度～令和 5 年度	機械工学科	准教授	渡邊 悠太	650
	台車型倒立振子の特性値再測定を要しないカスケード型 LADRC の安定解析とその応用	令和 3 年度～令和 5 年度	制御情報工学科	准教授	田中 諒	650
	簡易延命手法のき裂／焼結体界面の最適設計と高サイクル疲労特性向上	令和 3 年度～令和 5 年度	材料システム工学科	助教	佐々木大輔	910
	村山知義を基軸とした演劇運動史に関する基礎的研究	令和 3 年度～令和 5 年度	一般科目 (文科系)	教授	鴨川 都美	650
	構造と含酸素官能基の最適設計による炭素アクティブサイトの析出と触媒反応への応用	令和 5 年度～令和 7 年度	生物応用化学科	准教授	我部 篤	1,430
研究活動スタート支援	口絵デジタルアーカイブ拡充と明治期出版文化研究への活用	令和 2 年度～令和 5 年度	一般科目 (文科系)	准教授	常木 佳奈	期間延長

※金額：令和 5 年度受入額 (直接経費 + 間接経費)

※令和 5 年度実施課題を記載

(2) その他の補助金

(金額単位：千円)

名称	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
(公財) ちゅうでん教育振興財団	全学年全学科対象の放課後ものづくりプラットフォーム PrototypingLab の発展	令和 5 年度～令和 6 年度	教育研究支援センター	技術職員	屋並 陽仁	840

※令和 5 年度実施課題を記載

社会貢献

1. 生涯学習等

社会貢献及び理工学の振興を目的として、令和4年度は以下の公開講座を実施しました。

開催月	講座名称	対象者	参加者数	開催月	講座名称	対象者	参加者数
7月	電子工作×レジン手芸 ワイヤレス充電で光る置物工作	小・中学生	36	9月	エレクトロニクススクール ライントレースカーを作ろう	中学生	18
8月	金属アクセサリを作製しよう！	中学生	23	9月	あなたも一日サイエンティスト（数学講座）	中学生	34
8月	化学への招待 ー楽しい生物・化学教室ー	小・中学生	23	12月	3D-CAD/CAE（材料力学）講座	社会人	7
8月	ソーラーカーを作ろう！	中学生	11	12月	3D-CAD/CAE（熱流体）講座	社会人	2
8月	3D-CAD 基礎講座	社会人	14	12月	IoT 家電の製作 スマート照明を作ろう	中学生	12
9月	高専 AI デバイスを使った人工知能入門	中学生	9				

2. テクノネット久留米

テクノネット久留米は、本校による地域連携活動の強化を図る目的で平成24年10月に発足し、福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展や地域の人材の育成等を目指しています。

令和4年度は、本校と地域産業界等との連携・交流を一層深め、地域産業の発展に寄与するとともに、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、本校とテクノネット久留米会員との共同研究4件のほか、次の事業を実施しました。

年月日	事業名
令和4年 6月	テクノネット久留米会員紹介ブック 2022 発刊
令和4年 7月	テクノネット久留米図書寄贈事業「テクノネット久留米文庫」
令和4年 8月	テクノネット久留米会員紹介 HP 作成
令和4年11月	令和4年度テクノネット久留米定時総会（書面会議）
令和4年12月	久留米高専研究・開発シーズの育成奨励 採択者：教育研究センター 屋並技術職員

課外活動の主な実績

主な課外活動実績（令和4年度）

大会・コンテスト等名称	競技種目等詳細	成績
第57回全国高等専門学校体育大会	サッカー	準優勝
第9回全国高等専門学校弓道大会	弓道（女子団体）	準優勝
第9回全国高等専門学校弓道大会		射道優秀賞
第53回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会	ラグビーフットボール	第3位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	サッカー	優勝
第59回九州沖縄地区高専体育大会	ラグビーフットボール	優勝
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子 200m 走	優勝
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子 三段跳	優勝
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 女子 円盤投	優勝
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 女子 やり投	優勝
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子 400m 走	第2位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子 砲丸投	第2位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 女子 砲丸投	第2位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	水泳 男子 200m 平泳ぎ	第2位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	剣道（男子団体）	第2位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	バレーボール（女子）	第2位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子 4×100m リレー	第3位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	陸上競技 男子 4×400m リレー	第3位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	剣道（女子団体）	第3位
第59回九州沖縄地区高専体育大会	剣道（女子個人）	第3位
第7回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会	弓道（女子団体）	第3位
第29回九州高等専門学校 U-19 サッカー大会	サッカー	優勝
第33回全国高専プログラミングコンテスト		競技部門 第3位
第55回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト		暗唱部門 第2位
第16回 ISIPS		最優秀プレゼン賞

国際交流

1. 学生交流

(1) 留学生在籍状況

各年度4月1日現在（単位：名）

地域	国名	令和元年	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
アジア	インドネシア	1	2	1	2	1
	マレーシア	3	1	2	2	4
	モンゴル	4	4	4	2	2
	カンボジア	0	0	1	1	1
合計		8	7	8	7	8

(2) 学生海外派遣実績

（単位：名）

地域	国名	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
アジア	ベトナム、マレーシア、中国、タイ、韓国、シンガポール、インドネシア	26	0	0	8
オセアニア	オーストラリア	0	0	0	0
北米	カナダ	1	0	0	0
合計		27	0	0	8

2. 研究者交流

(1) 研究者受入実績（平成25～令和4年度）

国名	派遣元機関名称	受入人数（名）	受入学科	受入期間
タイ王国	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	制御情報工学科	H25. 5. 7～H25. 5.30
タイ王国	マハーサーラカーム大学	1	材料工学科	H25.10. 1～H26. 3.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H26. 7. 1～H26.12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H27. 8. 1～H27.12.31
タイ王国	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H28. 9. 4～H29. 9. 3
シンガポール	ナンヤン・ポリテクニク	1	制御情報工学科	R01. 9. 9～R01. 9.20

(2) 研究者渡航実績

（単位：名）

地域	主な国	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
アジア	中国、韓国、マレーシア、タイ王国、シンガポール、他5カ国	27	14	0	0	4
北米	アメリカ	2	0	0	0	0
欧州	イギリス、スペイン、フランス、ドイツ、他7カ国	6	3	0	0	0
合 計		35	17	0	0	4

大学等間交流協定

1. 海外

海外大学等との学術協定等締結状況

締結先機関名称	国	締結年月日	終了年月日
合肥学院大学	中国	平成 7年10月 5日	無期限
啓明大学校	韓国	平成 8年 1月22日	無期限
レッドリバー・コミュニティーカレッジ	カナダ	平成 9年 2月 3日	令和 9年 2月 2日
ペトロナス工科大学	マレーシア	平成26年 2月 6日	令和 6年 2月 5日
ガジャマダ大学	インドネシア	平成26年 2月 6日	令和 6年 2月 5日
キングモンクット工科大学北バンコク校	タイ	平成26年 2月 7日	令和 6年 2月 6日
カセサート大学	タイ	平成26年 2月10日	令和 6年 2月 9日
ハノイ大学	ベトナム	平成26年 6月 9日	令和 6年 6月 8日
厦門理工学院	中国	平成26年 6月28日	令和 6年 6月27日
モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成26年 8月 2日	令和 6年 8月 1日
国立台北科技大学	台湾	平成27年 3月 3日	令和 7年 3月 2日
ハノイ大学	ベトナム	平成27年 6月15日	令和 7年 6月14日
キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	平成28年 3月 1日	令和 8年 2月28日
ダナン大学機構科学技術大学	ベトナム	平成29年 2月22日	令和 9年 2月21日
キングモンクット工科大学 情報学部	タイ	平成29年 3月30日	令和 9年 3月29日
ガジャマダ大学専門学校	インドネシア	平成31年 3月29日	令和 6年 3月28日
ナンヤン・ポリテクニク	シンガポール	令和 3年12月20日	令和 6年12月19日
トゥールーズ IUT	フランス	令和 4年 9月 7日	令和 9年 9月 6日

2. 国内

(1) 国内大学等との学術協定等締結状況

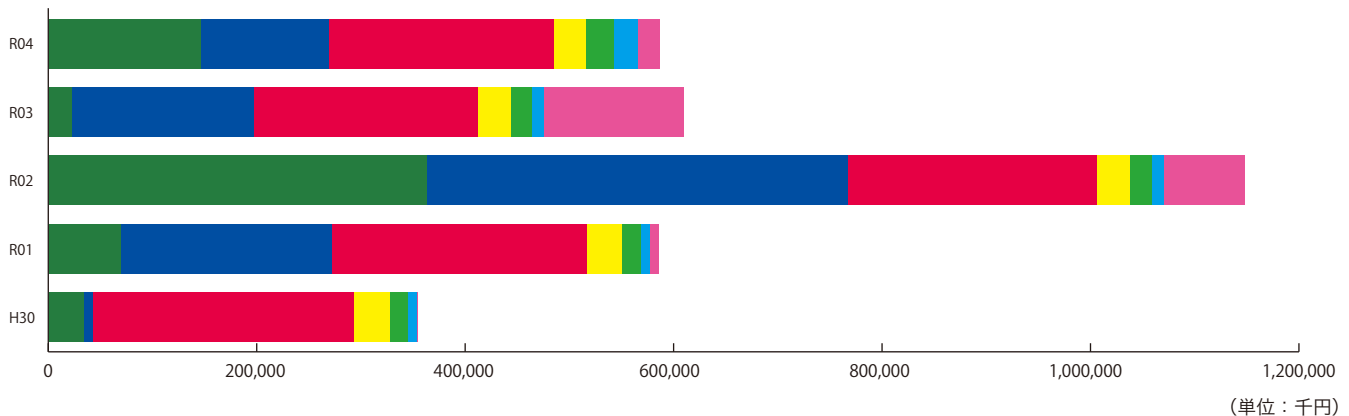
締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	修了年月日
久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛短期大学、聖マリア学院大学	単位互換	平成16年 6月28日	令和 6年 3月31日
有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校	単位互換	平成21年10月 1日	令和 6年 9月30日
久留米工業大学、久留米大学、聖マリア学院大学、久留米信愛短期大学	高等教育コンソーシアム久留米の設置	平成21年12月17日	無期限
北陸先端科学技術大学院大学	推薦入学	平成24年 3月27日	令和 6年 3月26日
久留米工業大学	教育・研究・地域社会活動分野での連携協力	平成29年 6月 1日	期限なし
九州大学大学院総合理工学府、大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、先端物質化学研究所	インターンシップ・共同研究	平成30年 1月11日	令和10年 1月10日
九州大学工学系部局	インターンシップ・共同研究・連携教育の推進	平成30年12月 1日	令和 8年11月30日
久留米大学	教育・研究・地域社会活動分野での連携協力	令和元年 8月 1日	無期限
早稲田大学大学院情報生産システム研究科	推薦入学	令和 2年12月10日	令和 8年 3月31日
放送大学	単位互換	令和 4年 3月 4日	令和 7年 3月31日

(2) 地方公共団体等との協定締結状況

締結先機関等名称	協定内容	締結年月日	終了年月日
久留米市	事業協定	平成21年 3月31日	期限なし
日本歯車工業会	連携・協力	平成28年 5月20日	令和 6年 5月20日(1年毎更新)
日本ゴム協会九州支部	連携・協力	平成28年 7月 8日	令和 6年 7月 8日(1年毎更新)
久留米商工会議所	連携・協力	平成28年12月21日	令和 5年12月21日(1年毎更新)
鳥栖市	連携・協力	令和 4年 8月26日	令和 7年 8月27日

財務状況

1. 収入



科目\年度	H30	R01	R02	R03	R04	説明
運営費交付金	33,571	69,068	362,645	21,276	145,654	業務運営に必要な資金として国から交付されたもの
施設整備費補助金	8,316	202,574	404,828	175,615	123,310	本校の基盤施設整備のために国から交付されたもの
授業料収入	251,276	245,172	238,780	215,176	216,028	学生から納付された授業料
その他自己収入	34,004	33,552	31,836	31,621	31,117	本校が受け入れた検定料、入学金、寄宿料等
産学連携等収入	18,202	18,298	21,223	20,073	26,648	産学官連携事業を実施するために受け入れた現金など
寄付金収入	7,830	8,657	11,403	11,819	22,881	本校の業務を財政的に支援するために寄附された現金等
その他補助金	1,617	8,727	78,383	133,955	21,002	特定の事業を実施するために国等から交付されたもの
合計	354,816	586,048	1,149,098	609,535	586,640	

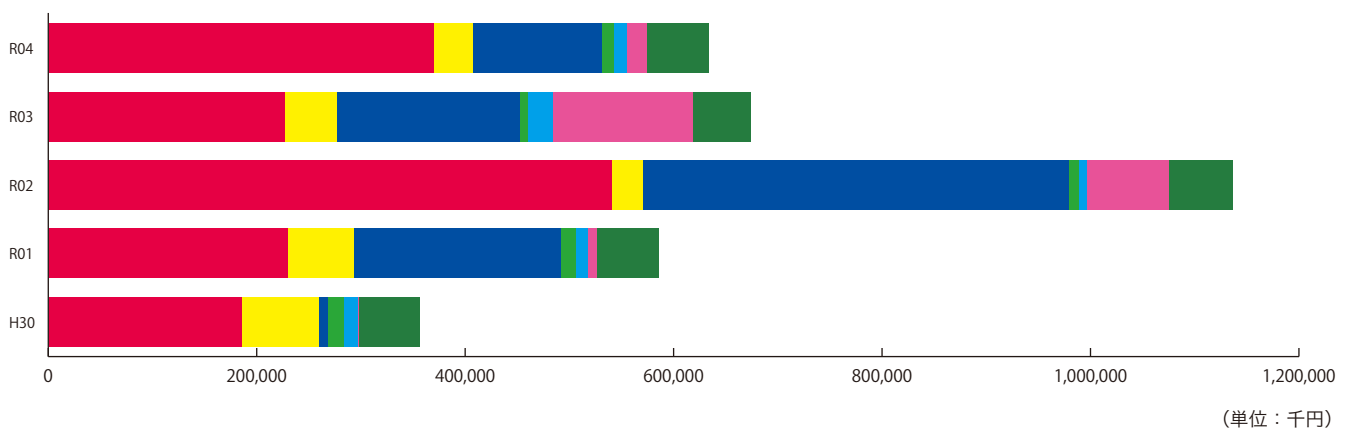
※1 令和2年度の施設整備費補助金は、ものづくり教育センター改修工事費等、同年度の運営費交付金は、前述工事に伴う移転費等。

※2 令和3年度の施設整備費補助金は、ライフライン再生（給排水設備）工事費。

※3 令和4年度の施設整備費補助金は、筑水寮（寄宿舎2号館）改修工事費。

※4 常勤教職員の人件費については、（独）国立高等専門学校機構本部の収入予算に計上しているため上記項目の運営費交付金には含まれていない。

2. 支出



科目\年度	H30	R01	R02	R03	R04	説明
教育研究費	185,058	229,207	540,280	226,816	369,226	教育及び研究に要した金額
一般管理費	74,423	64,129	30,270	49,587	38,258	管理部門に要した金額
施設整備費	8,316	198,370	409,032	175,615	123,310	施設整備費補助金の対象事業に要した金額
産学連携等研究経費	15,390	14,601	9,552	8,399	12,339	産学官連携事業に要した金額
寄付金事業費	13,340	10,792	8,314	23,652	12,018	寄附金で執行した金額
その他補助金	1,617	8,727	78,281	133,847	19,433	その他補助金で執行した金額
人件費	58,244	60,213	61,083	56,264	58,989	非常勤教職員に係る人件費
合計	356,388	586,039	1,136,812	674,180	633,573	

※1 令和2年度の教育研究費は、ものづくり教育センター改修工事に伴う移転費を含む。

※2 令和4年度の教育研究費は、基盤的設備の整備費を含む。

※3 常勤教職員の人件費については、（独）国立高等専門学校機構本部の支出予算に計上しているため上記項目の人件費には含まれていない。

施設状況

1. 保有不動産

(1) 土地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舎
	校舎等	屋外運動場	学生寮	計	
101,592㎡	69,157㎡	25,649㎡	4,800㎡	99,606㎡	1,986㎡

(2) 建物

区分	名称	構造	延面積 (㎡)	区分	名称	構造	延面積 (㎡)
校舎等施設	機械・材料システム工学科棟	R4	2,799	校舎等施設	物品庫	R1	32
	D1・D2 講義室	R1	180		燃料庫	R1	20
	D3・D4 講義室	R1	370		変電室	R1	79
	ものづくり教育センター	R2	1,939		事務部倉庫	R1	54
	熱・材力実験棟	R2	601		記念館	R1	252
	流体実験室	R2	264	校舎等施設 小計			20,552
	材料実習棟	R2	405	図書館・体育等施設	図書館総合情報センター	R2	1,702
	電気電子・制御情報工学科棟	R4	2,720		第一体育館	S1	1,121
	電気室	R1	38		第二体育館	RS1	880
	制御情報工学科棟	R3	793		武道場	R2	450
	専門教室棟	R3	663		練心館（合宿研修所）	R2	223
	生物応用化学科棟	R4	1,605		学生部室	S1	612
	生物応用化学北別館	R4	521		弓道場	W1	238
	一般教室棟	R3	1,437		体育器具庫	S1	180
	一般文科・理科棟	R3	1,559		ウェーブホール	S1	519
	一般共通棟	R2	419		プール棟	R1	209
	専攻科棟	R3	1,202		新部室	S1	193
	産学連携リサーチセンター	R1	438	図書館・体育施設等 小計			6,327
	生物・化学実験棟	R1	300	学生寮施設	学生寄宿舍（筑水寮）	R4	3,002
	産学連携テクノセンター棟	R2	413		学生寄宿舍2号館（筑水寮）	R4	781
	管理棟	R2	1,156		学生寄宿舍（つつじ寮）	R3	578
	守衛室	R1	20	学生寮施設 小計			4,361
	車庫	R1	122	職員宿舎施設	職員宿舎（7戸）	W1	581
	中央ボイラー室	R1	151	総 計			31,821

2. 各種施設

(1) ウェーブホール

「学生が怒涛のごとく攻める様子」をイメージして名付けられたこの施設は、学生・教職員の憩いの場として、カフェテリアレストラン、売店、自販機コーナー、ラウンジを備えており、文化部の活動紹介や講演会等の場としても活用されています。



食堂



売店



外観

(2) 記念館

旧制の久留米高等工業学校の設立から数えて40周年を迎えたのを記念して、本校同窓会久留米工業会により建設され、本校に寄贈された施設で、会議室、展示室、和室を備えています。

展示室には本校の歴史的資料が展示されており、和室は茶道部や華道部等の活動場所としても活用されています。



和室



展示



外観

3. 配置図

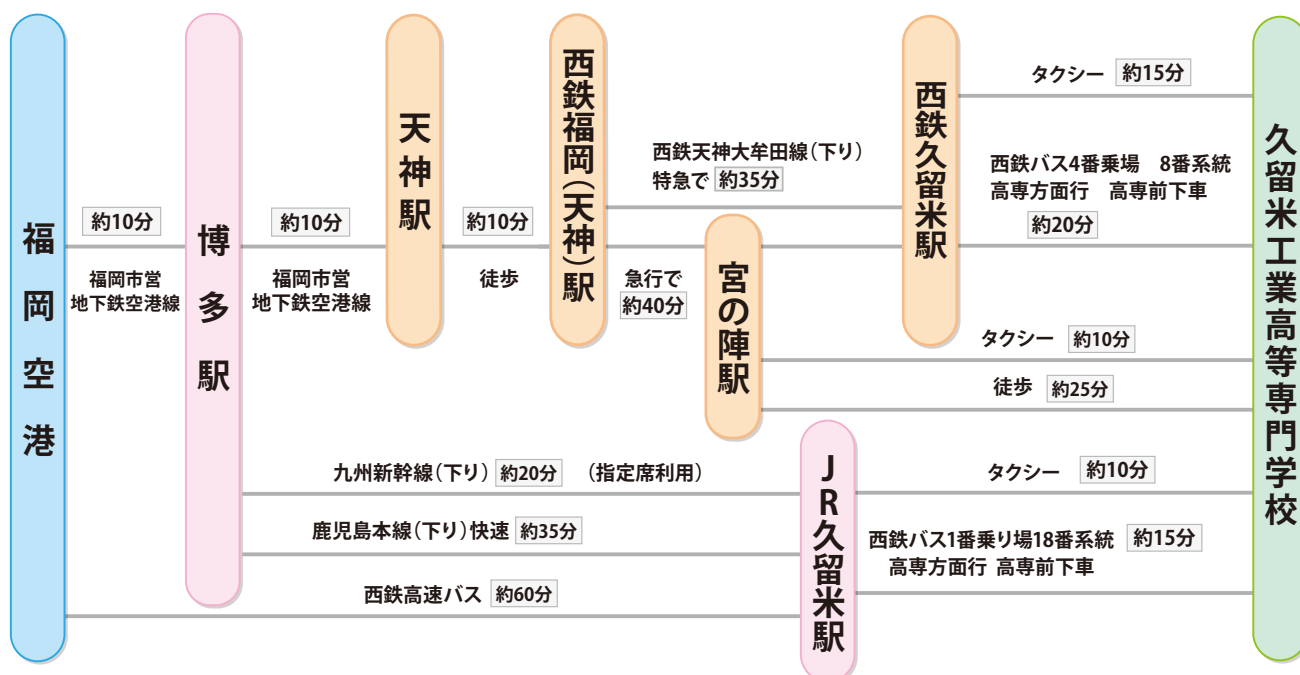
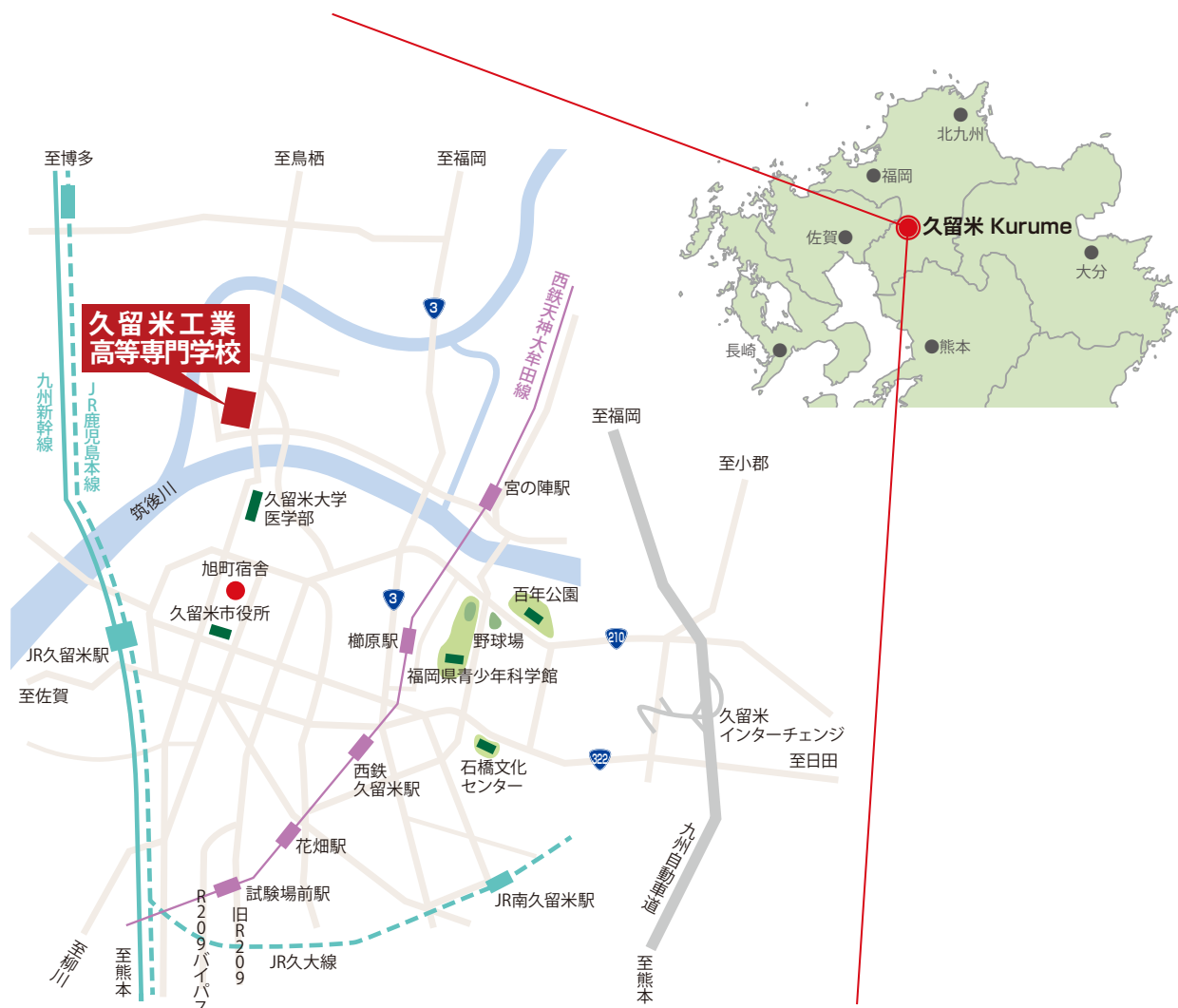
キャンパスマップ Campus Map



管理・支援	総務課（受付）	S03	管理棟
	学生相談室・保健室	S03	管理棟
	学生課	S02	一般共通棟
	図書館・総合情報センター	S07	図書館・総合情報センター
	産学連携テクノセンター	S05	産学連携テクノセンター
教員室	産学連携リサーチセンター	E01	産学連携リサーチセンター
	同窓会事務局・会議室	E04	記念館
	後援会事務局	M04	専門教室棟
	一般文科・理科	S04	一般文科・理科棟
		S02	一般共通棟
実験室	機械工学科	E07	機械材料システム工学科棟
	電気電子工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
	制御情報工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		M01	制御情報工学科棟
	生物応用科学科	M03	生物応用化学科棟
	材料システム工学科	E07	機械材料システム工学科棟
	一般文科・理科	S04	一般文科・理科棟
		E07	機械材料システム工学科棟
	機械工学科	N05, N08	ものづくり教育センター
		N04	熱・材力実験棟
		N07	流体実験棟
	電気電子工学科	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		E02	電子工作室
		N05	ものづくり教育センター
	制御情報工学科	M01	制御情報工学科棟
実験室		E03	電気電子・制御情報工学科棟
		N05	ものづくり教育センター
		M03	生物応用化学科棟
		M02	生物・化学実験棟
	生物応用化学科	E01	産学連携リサーチセンター
		N05	ものづくり教育センター
		E01	産学連携リサーチセンター
	材料システム工学科	E07	機械材料システム工学科棟
		E08	高圧機器分析室
		M05	材料実習棟

教室	1・2年生	S01	一般教室棟
		S02	一般共通棟
	3年生	E03	電気電子・制御情報工学科棟
		E07	機械材料システム工学科棟
		E05	D3,4教室棟
		E06	D1,2教室棟
	4・5年生	M03	生物応用化学科棟
		M04	専門教室棟
	専攻科	S06	専攻科棟
	D4教室	E05	D3,4教室棟
福利厚生	美術室	M04	専門教室棟
	学生寮（気水寮）	N01	気水寮
	学生寮（つつじ寮）	N02	つつじ寮
	緑心館	N03	緑心館
	食堂・売店	N06	ウェーブホール
	テニスコート	W01	
	運動場	W02	
	野球場	W03	
	弓道場	W04	
	体育器具庫	W05	
	第二体育館	W06	
	第一体育館	W07	
	武道場	W08	
	学生部室	W09	
	プール	S08	
	駐車場（学生用）	P01, P02	
	駐車場（教職員用）	P03, P04	
	駐車場（外来・教職員用）	P05	
	バイク駐輪場	P06, P07	
	駐輪場	P08, P09, P10, P11	

アクセス



令和5年度 学 校 要 覧

令和5年8月

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校 広報委員会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野一丁目1番1号

TEL 0942-35-9300（代表） FAX 0942-35-9307

<https://www.kurume-nct.ac.jp/>

